

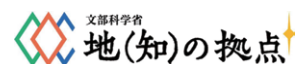
ALL 富山COC+事業協働機関



【高等教育機関】	富山大学 (COC+ 採択校)・富山県立大学 (COC 採択校)・富山国際大学 (COC 採択校) 富山短期大学 (参加校)・富山福祉短期大学 (参加校)・富山高等専門学校 (参加校)・高岡法科大学 (協力校)
【地方公共団体】	富山県・富山市・高岡市・魚津市・氷見市・滑川市・黒部市・砺波市・小矢部市・南砺市 射水市・舟橋村・上市町・立山町・入善町・朝日町
【企業等】	富山県商工会議所連合会・富山県機電工業会・YKK・インテック・北陸銀行・富山銀行・富山第一銀行
【地域メディア】	北日本新聞社・富山新聞社・読売新聞・富山テレビ放送

COC+事業

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」は、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。



富山大学 地域連携推進機構 地域連携戦略室

〒930-8555 富山市五福3190 学生支援・地域連携交流プラザ2F
TEL 076-445-6177・076-445-6519 FAX 076-445-6033 t-senryaku@adm.u-toyama.ac.jp



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

とやま で 育 て よ う。

事業報告書

平成27年度～平成29年度

| ALL 富山 COC+ |

富山全域の連携が生み出す地方創生
—未来の地域リーダー育成—

COC+

Center of Community Plus

<http://www3.u-toyama.ac.jp/chiiki/cocplus/>





ALL富山COC+事業について

ALL富山COC+事業は、県内全ての高等教育機関の連携の下、富山県はじめ県内全ての市町村、主要な企業、金融機関、地域メディアと協働し、富山の地方創生に取り組む事業として、平成27年度にスタートした。

ALL富山COC+事業では、若者（卒業者）の地元定着を促進するために、大きく「入口戦略」、「教育戦略」、「出口戦略」の3つの戦略を展開している。入口戦略では、地元定着率の高い県内高校生の県内進学を促し、教育戦略では、より質の高い地域科目を提供することで富山と関わりを持ち富山の良さを知る機会を学生に提供している。出口戦略では、学生と県内企業がそれぞれの魅力を伝え合えるような出会いの場を数多く提供している。

教育改革を進め、地域と連携した新しい取組を展開していく中で、この事業の根幹をなす「信頼の循環」が次第に醸成され、県内高等教育機関が富山という地域と一体となって地方創生を推進する拠点となるべく、ALL富山COC+事業は着実に前進している。

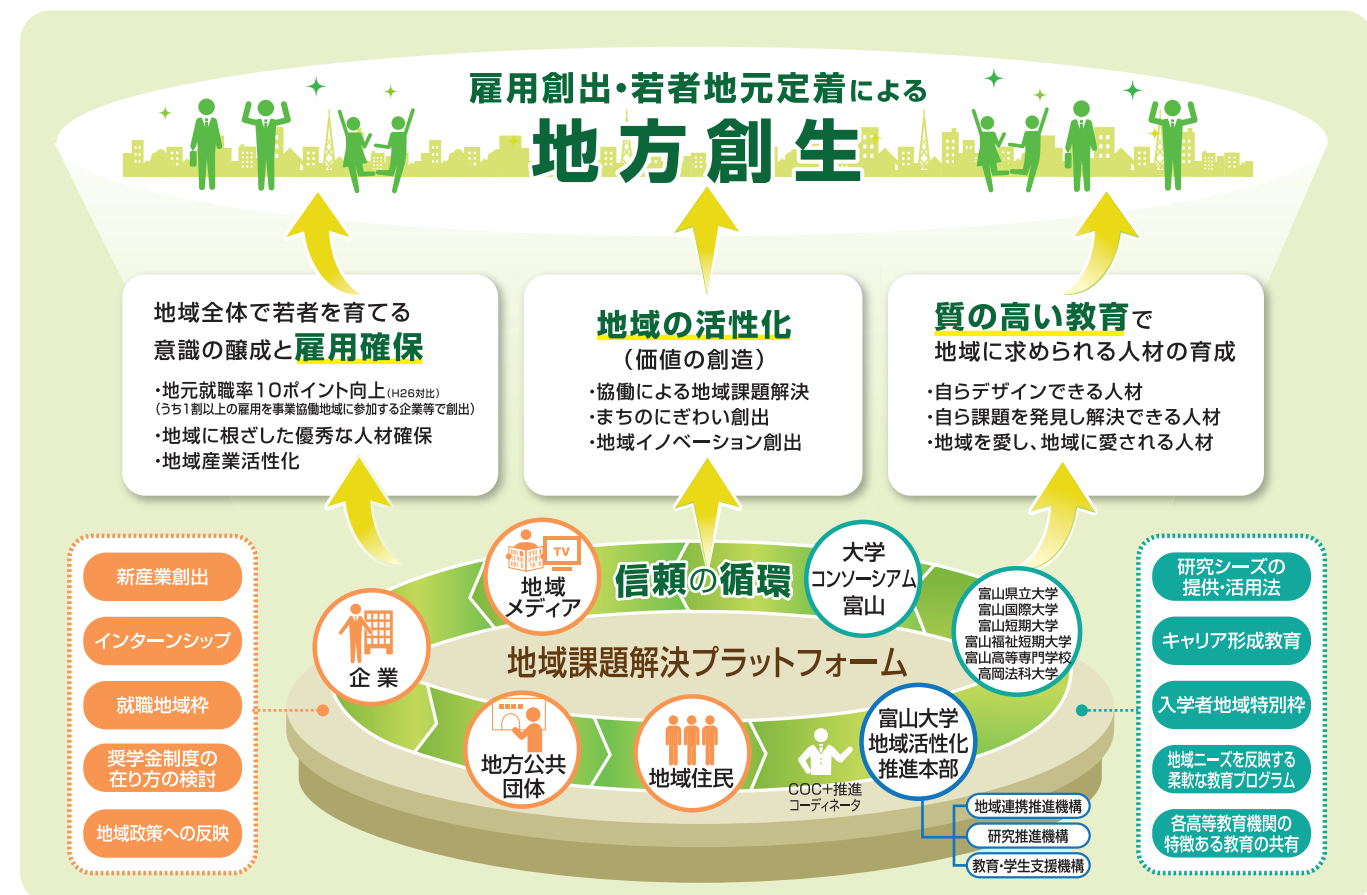
ALL富山COC+事業の特徴

この事業では、

- 1 質の高い教育を提供し、地域に求められる人材（未来の地域リーダー）を育成する
- 2 地域全体で若者を育てる意識を醸成し、若者の雇用を確保し地域定着を促進する
- 3 協働による地域課題解決や地域イノベーション創出に取り組み、地域の活性化を実現する

ことを通じて、富山の地方創生を図る。

また、事業を効果的に展開するため、アンケート調査等を十分に行い、統計手法を活用した分析結果に基づいて事業内容等を検討し改善している（PDCAの着実な実施）。



「信頼の循環」の醸成

本事業の根幹をなすのは、富山の地方創生に取り組む全ての地方公共団体、企業・団体、地域メディア、地域住民と、県内高等教育機関がつくり出す「信頼の循環」。信頼の循環は、地域課題や地域目標を共有し連携するために必要な、地域全体の密接な信頼関係を構築していく不可欠なサイクル（循環）であり、ALL富山COC+事業の推進力となっている。



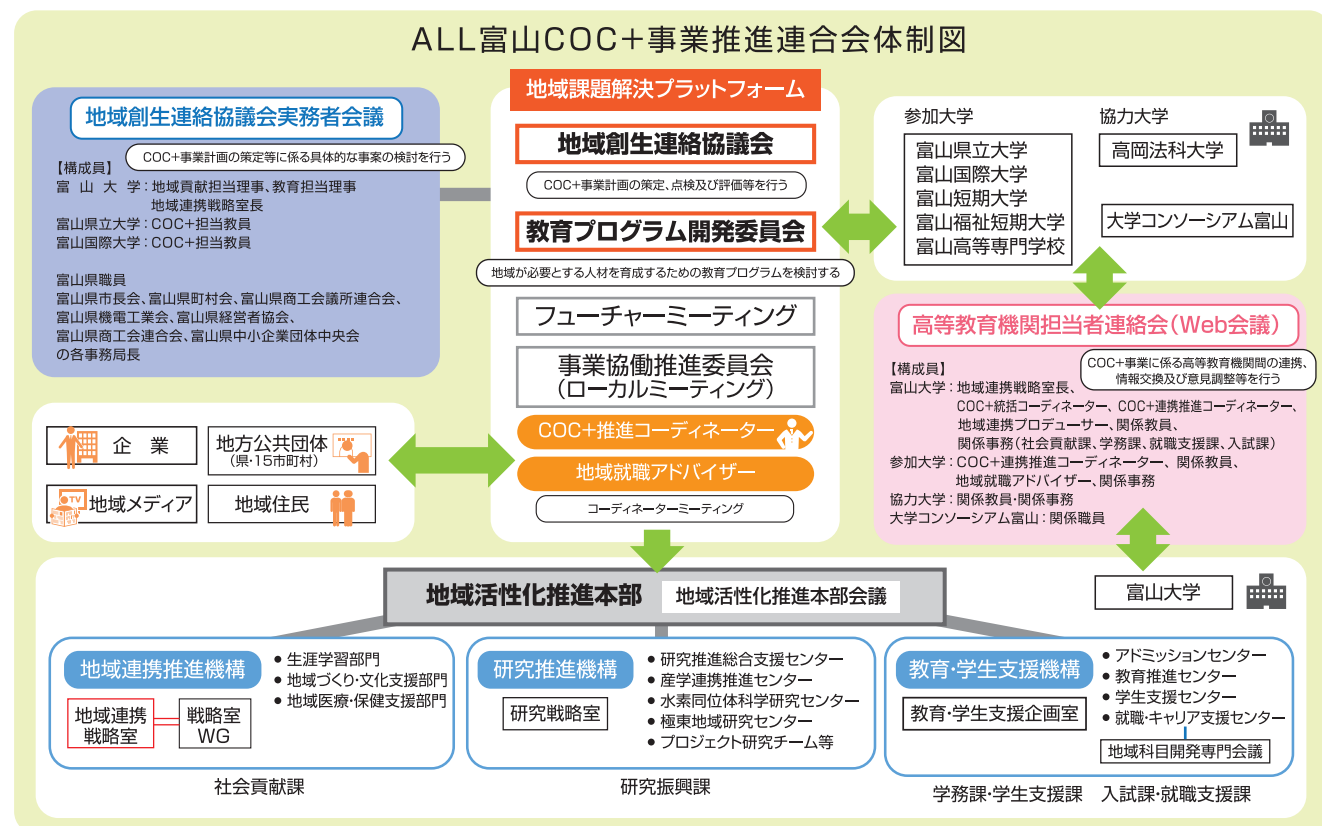
ALL富山COC+事業の推進体制

本事業の推進体制として、平成27年度に「地方創生連絡協議会」「教育プログラム開発委員会」等からなる「地域課題解決プラットフォーム」を整備し、さらに地方創生連絡協議会実務者会議や高等教育機関担当者連絡会等の会議体等を加えて「ALL富山COC+事業推進連合会」を構成した。

「地方創生連絡協議会」は、富山県全域（事業協働地域）が地方創生に取り組むための協議の場として、大学、地方公共団体、企業等の代表等で構成し、本事業の方向性や改善について協議を行っている。

「教育プログラム開発委員会」は、富山に定着し地域再生を主導する人材（未来の地域リーダー）を育成するために必要な教育プログラム等の企画・立案を行う場として、各高等教育機関の教育プログラム開発の責任者や企業の代表者等で構成し、県内の全ての高等教育機関による人材育成に向けた協議を行っている。

ALL富山COC+事業の幹事校である富山大学では、平成27年4月に、地域活性化の中核拠点となるための全学的体制として、学長を本部長とする地域活性化推進本部を設置し、その下に地域連携推進機構を配置した。地域連携推進機構には、地域連携に関するシンクタンク機能を備えた地域連携戦略室を設置し、本事業を中心的に推進している。



これまでのPDCAサイクル（富山大学）

■在学生、卒業生・修了者アンケート及び県内企業アンケートを基にしたPDCAサイクル

学生アンケート調査（平成27年度）、卒業・終了者進路追跡実態調査（平成28年度）、県内企業アンケート調査（平成28年度）について、その結果を就職支援専門会議、インターンシップ支援専門会議で報告し、学生の地域定着支援について検討している。また、各学部において地域定着プログラムへの意見を収集し、地域定着プログラムの改善に活かしている。

■授業アンケート調査の活用等による県内就職率向上に向けたPDCAサイクル

平成28年度後学期において、富山の地域活動の認知度、富山の自然への認知度、地域の就職先としての魅力度についてアンケート調査を行った結果、4年間を通して継続的に地域志向を高めていくことが必要であるとわかった。

平成29年度前学期において、学生の就職意識について因子分析、重回帰分析を行った。「グローバルに活躍することができる就職先を選ぶ」という意識が、県内出身学生の県内就職に対する魅力度に寄与しているなど、新しい知見が得られた。

経済学部における魚津市と連携した「地域再生論演習」など、地域と密着した活動を取り入れた授業では、履修者のその地域の市役所等への就職の意識が高まった。

平成28年度の学部別県内就職率では、特に工学部において向上が著しかった。「県内企業の積極的なアプローチ」「教員と企業の信頼関係の醸成」が影響を及ぼしたと推察される。

■県内出身学生と県内就職の相関分析を基にした入口戦略におけるPDCAサイクル

富山大学の入学者の県内高等学校出身割合と4年後の県内就職率には高い正の相関が見られた。県内就職率の維持・向上に向けた入口戦略の重要性が明らかとなり、県内高等学校向けのキャリアデザイン講座等を実施している。また、地方公共団体と連携した県内高等学校への働きかけも行っている（魚津市、荒井学園）。

01 教育戦略

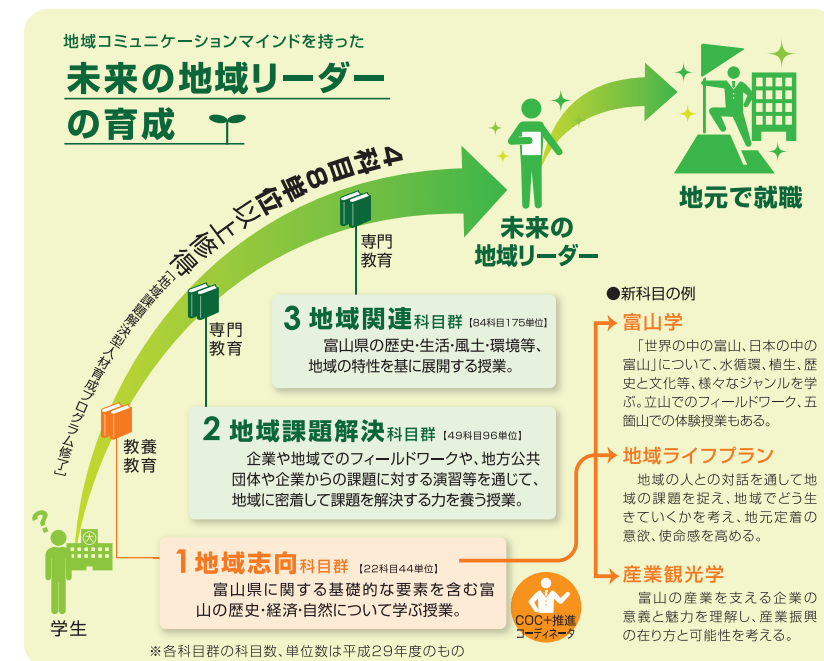
富山大学

1 地域課題解決型人材育成プログラム

未来の地域リーダーの育成

富山大学では、平成27年度に「富山大学地域課題解決型人材育成プログラムに関する規則」を制定し、地域に求められる人材輩出に取り組んでいる。

このプログラムは、学士課程の授業科目のうち地域を学ぶ科目を「地域志向科目（教養科目）」「地域課題解決科目（専門科目）」「地域関連科目（専門科目）」として階層的に設定し、これらの科目から4科目以上8単位以上を修得した学生に、「地域課題解決型人材育成プログラム修了証書」を授与し、「未来の地域リーダー」の称号を付与するものである。



3つの地域科目群の特徴

■地域志向科目群

富山県に関する基礎的な要素を含む富山の歴史・経済・自然に係る教養教育科目

■地域課題解決科目群

学部の専門分野に応じた企業等及び地域でのフィールドワーク並びに地方公共団体及び企業等からの課題及び問題点に対する演習に取り組む等、地域に密着し課題を解決する力を養う内容の専門教育科目

■地域関連科目群

富山県の歴史・生活・風土・環境その他の地域の特性を基に課題を解決する力を養う内容の専門教育科目

育成する人材像

未来の地域リーダーは、地域を理解し、地域課題を把握する能力を持った人材であり、4年ないし6年間のカリキュラム全体を通じて以下の3つの資質を備えた人材である。



授業アンケート調査

ALL富山COC+の新設科目等において、授業の開始時と終了時にアンケートを実施したところ、富山（地域活動・自然）に対する認知が向上し、ALL富山COC+事業に対する認知も向上した。

また、就職先としての富山県と富山県以外の魅力を調査したところ、そのどちらも魅力を感じる度合いが増えたが、特に富山県の就職先としての魅力の伸び率が高く、地域定着に対する授業の効果が認められた。

※大学コンソーシアム富山の平成27年度学生による地域フィールドワーク研究助成事業に採択された「大学卒業後の地域定着意欲に関する研究」によると、県外出身の富山大学生の富山定着意欲には、富山における満足度（地域活動、自然環境、遊ぶ場所）が影響していることがわかっている。

■ALL富山COC+新設科目の効果:授業による就職意識の変化

ALL富山COC+新設科目等のアンケート分析より(H28年度後学期)

●認知の変化(地域活動、自然、COC+)

	開始時		終了時		平均の差	t値
	平均	SD	平均	SD		
富山の地域活動認知	2.03	1.159	3.35	1.166	1.32	-16.038 ***
富山の自然認知	2.88	1.215	3.74	1.085	0.86	-11.129 ***
COC+認知	2.10	1.473	3.64	1.502	1.54	-15.218 ***

*p<.05; **p<.01; ***p<.001

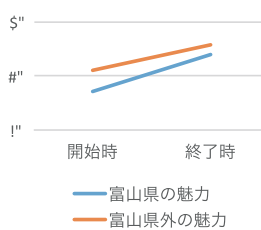
※「1.知らない～6.知っている」の6段階で調査

●就職先の魅力の変化(富山県、富山県以外)

就職先としての魅力	開始時		終了時		平均の差	t値
	平均	SD	平均	SD		
富山県	3.71	1.485	4.10	1.385	0.39	-5.012 ***
富山県以外	4.39	1.219	4.57	1.118	0.18	-2.440 *

*p<.05; **p<.01; ***p<.001

※「1.魅力ない～6.魅力ある」の6段階で調査



学生は就職先企業をどのように選んでいるのか、22の質問について重視する度合いを6段階で答えてもらい、因子分析を行った。

4つの因子が抽出され、そのうち2つの因子は外発的動機付けと内発的動機付けに関する因子であった。この結果をもとに地域定着に学生を動機付ける方策が検討された。

■企業選択の因子分析

●企業を選択するとき重視する項目の因子分析

	因子1	因子2	因子3	因子4
就活サイトの情報を元に就職先を選ぶ	.756	-.079	-.025	.148
選考で落ちなさそうな就職先を選ぶ	.731	.160	-.162	-.078
企業のWeb ページの情報を元に就職先を選ぶ	.636	-.094	.086	.185
インターシップ先を就職先を選ぶ	.560	-.077	.206	-.036
CMの企業イメージで就職先を選ぶ	.537	-.119	.200	.012
先輩が入社している就職先を選ぶ	.420	.121	.198	-.006
転職がない就職先を選ぶ	.345	.245	-.193	-.002
危険のない就職先を選ぶ	.334	.309	-.049	.130
アルバイト先を就職先を選ぶ	.301	-.118	.242	-.070
地域創生の仕事ができる就職先を選ぶ	.151	.643	.066	-.266
社会に対する貢献を基準に就職先を選ぶ	-.071	.558	.072	.083
研修制度など成長の機会が多い就職先を選ぶ	.176	.531	.198	-.105
自分の好きなことを基準に就職先を選ぶ	-.361	.505	.155	.097
得意なことと基準に就職先を選ぶ	-.239	.488	.181	.199
将来の安定を基準に就職先を選ぶ	.075	.394	-.271	.389
福利厚生を基準に就職先を選ぶ	.156	.364	-.118	.162
最先端の仕事ができる就職先を選ぶ	.071	.114	.774	-.013
グローバルに活躍できる就職先を選ぶ	.059	-.009	.751	-.007
将来責任のある地位につくことができる就職先を選ぶ	-.090	.140	.454	.182
様々な仕事の種類が経験できる就職先を選ぶ	.209	.232	.405	-.031
企業規模・ブランド力を基準に就職先を選ぶ	.134	-.143	.238	.725
賃金を基準に就職先を選ぶ	.025	.126	-.039	.633

因子寄与 3.920 3.099 2.965 2.438

因子抽出法: 最尤法 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

注: 太枠内は、ある1つの因子で因子負荷量0.400以上の場合

因子1: 受け身
因子2: 地方創生
因子3: 最先端、グローバル
因子4: ブランド、金

内発的動機

外発的動機

2 学生によるCOC+地域連携研究助成

この事業は、学生が富山県内の地方公共団体や企業等と連携して実施する研究に対し、助成を行い、日ごろ興味を持って取り組んでいる研究が地元へ貢献できることを理解し、引き続き地域で活躍する意欲を高めてもらうことを目的として実施した。

助成対象研究は、本学に在籍する学生が所属するゼミナール(講座、専攻)等の専門性を活かし、教員の指導のもとに学生が実施する地元企業や地方公共団体等の課題解決に繋がる成果を目指した研究とする。

公募要項を作成し、学生の地域連携研究を募集した。

17件の応募中9件を採択し、助成を受けた学生が、研究成果をまとめたポスターにより発表を行った。

地域連携に係る研究を実施した学生は、日頃取り組んでいる研究を地域との連携により実施することで、身近な課題として考え、地域に貢献できる手ごたえと自信を得ることができ、地域で活躍する意欲が高めることができた。来場者は、学生に対する質問等を通して、学生の地域研究について理解を深めることができ、成果発表した学生は、質疑応答や直接アドバイス等により研究意欲が高まった。

学生が地域に関わって研究することは、地域で活躍したいと思う気持ちを醸成し、地域定着に繋がる。今後は、大学コンソーシアム富山の「学生による地域フィールドワーク研究助成」事業等を活用して、学生の地域でのフィールドワーク活動を推進していく。

目次	
富山大学学生によるCOC+地域連携研究助成成果報告書	地域活性化を目指したプロスポーツの有機的連携に関する研究・・・・・・1
	富山県中山間地域における活性化施策に関する研究 ーコミュニティ・ビジネスと新規参入のあり方を考えるー・・・・・・7
	フィールドサイエンスと地域創生・・・・・・11
	地域に根差した希少生物の保護を目指した生態学および遺伝学的研究・・・・15
	清流庄川 ー一級河川が作り出す美しい自然・清らかな水を“科学”するー・・・・21
	雪の積雪軽減のための新規技術の開発と活用・・・・・・27
	富山県におけるゴマ特産化に向けた製菓用ゴマの栽培及び開花・・・・・・31
	オウツメを利用した健康増進と歯予防・・・・・・35
	砺波平野農村地域における風景資源利用の展開と未来に向けた提案・・・・41

平成28年度

富山大学学生によるCOC+地域連携研究助成

富山大学に在籍する学生が、富山県内の地方公共団体や企業等と連携して実施する研究を支援します。

募集案内

対象研究: ゼミナール(講座、専攻)等の専門性を活かし、教員の指導のもとに学生が実施する、富山県内の地方公共団体や企業等の課題解決に繋がる成果を目指す研究

助成額: 25万円(上限) / 1研究

募集締切: 平成28年7月8日(金)

成果発表: 平成29年2月 (予定)

お問い合わせ: 富山大学 地域連携推進機構 地域連携戦略室
〒930-8555 富山県富山市1-100 学生支援・地域連携交流プラザ2F
TEL: 076-445-6117 / 076-445-6119
ホームページ: <http://www3.u-fyama.ac.jp/coc/01/1-1.html>
※募集要項などの詳細は、地域連携推進機構のホームページでご確認ください。

平成28年度 富山大学 学生によるCOC+地域連携研究助成 成果発表会

富山大学では、「地域創生・産業振興」をテーマとするCOC+地域連携研究助成事業を実施しています。この成果発表会は、学生による研究成果を発表し、地域社会との連携を促進することを目的としています。

発表テーマ一覧:

- ① 地域活性化を目指したプロスポーツの有機的連携に関する研究 (発表者: 富山県立大学 学生)
- ② 富山県中山間地域における活性化施策に関する研究 (発表者: 富山県立大学 学生)
- ③ フィールドサイエンスと地域創生 (発表者: 富山県立大学 学生)
- ④ 地域に根差した希少生物の保護を目指した生態学および遺伝学的研究 (発表者: 富山県立大学 学生)
- ⑤ 清流庄川 (発表者: 富山県立大学 学生)
- ⑥ 雪の積雪軽減のための新規技術の開発と活用 (発表者: 富山県立大学 学生)
- ⑦ 富山県におけるゴマ特産化に向けた製菓用ゴマの栽培及び開花 (発表者: 富山県立大学 学生)
- ⑧ オウツメを利用した健康増進と歯予防 (発表者: 富山県立大学 学生)
- ⑨ 砺波平野農村地域における風景資源利用の展開と未来に向けた提案 (発表者: 富山県立大学 学生)

開催日時: 平成28年3月27日(月) 13:00-13:50

会場: 富山大学 五層ホール(1F) 砺波キャンパス

参加費: 無料

お問い合わせ先: 富山大学 地域連携推進機構 地域連携戦略室
〒930-8555 富山県富山市1-100 学生支援・地域連携交流プラザ2F
TEL: 076-445-6117 / 076-445-6119
ホームページ: <http://www3.u-fyama.ac.jp/coc/01/1-1.html>
※募集要項などの詳細は、地域連携推進機構のホームページでご確認ください。

富山県立大学

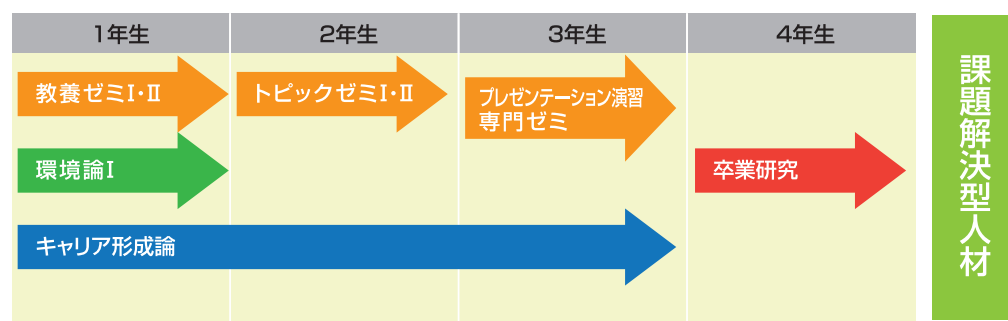
1 地域を志向したカリキュラム「地域協働授業」

富山県立大学では、地域の課題に対して広く教育・研究・社会貢献の観点から全学を挙げて取り組むこととし、地域に役立つ技術者マインド「工学心」を持ち、地域課題を解決できる学生の育成を図る等、「地域協働型大学」の構築を目指している。

各年次のカリキュラムに「地域協働科目」を設定し、全ての学年が在学中に複数回、地域との交流・対話・協働により地域の課題解決を目指す「地域協働授業」を経験できる体制を整え、その成果を半期毎に開催される「地域協働授業成果発表会」にて発表している。

少人数ゼミの授業の中で、学生が多様な地域関係者と直接対話や交流等を行い、地域が抱える課題の解決に向けて、地域関係者と一緒に考え、また、学生自らがその課題を捉え、解決のためにどう取り組めばよいかを学修することを通じて、主体的に課題解決することができる能力を持った人材の育成を目指している。

地域協働科目（卒業必修）



2 キャリア形成論の見直し

富山県立大学では、教養科目や専門科目とは別に「キャリア形成科目」を開設し、入学から卒業までの一貫したキャリア形成教育を行っている。

キャリア形成論は、入学直後から3年次まで、学年に応じたキャリア形成を行う科目で、3年間の履修期間で、体系的に15回のプログラムを実施する。

平成28年度にキャリア形成論について一部見直しを行い、平成29年度より新しいプログラムを試行的に実施した。



見直し内容

- クラス編成人数の見直し
（最大60人クラス→30人規模で編成）
- 学科混合クラスの実施
（2年次より5学科のクラス編成を混合させることで、コミュニケーション能力の向上を図る）
- 外部講師の登用
（グループワークを中心とした講義を実施）

富山国際大学

1 とやま地域創生人材育成プログラム（副専攻プログラム）

プログラム概要

とやま地域創生人材育成プログラムは、

- 1) 4段階の地域探求プロセスによる課題解決型人材の育成
- 2) 学生の自主的活動を通じた課題解決力の向上
- 3) 国内外のインターンシップを有効な体験として活かす
- 4) 地元学学習を通じて、富山への理解・愛着を深める
- 5) 情報技術学習・社会人基礎力学習を通じて、ビジネスパーソンとして必要な基礎的スキルをレベルアップする

を目指すものである。



副専攻プログラム

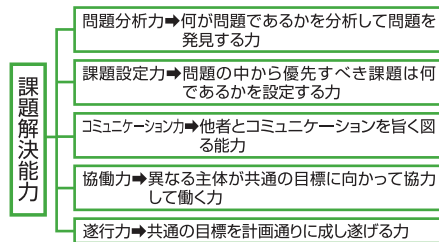
「とやま地域創生人材育成プログラム」の理念をさらにグレードアップするものとして、COC事業終了後も、本学の学生指導の中心的目標と位置づけるべく、「副専攻プログラム」を創設し、「グローバル人材」とともに「地域創生推進士」の育成を目指して、全学的に取り組んでいる。

2 能力特性評価テスト

能力特性評価テストは、地域社会が求める能力ニーズを「問題分析力」「課題設定力」「コミュニケーション力」「協働力」「遂行力」の5項目に設定し、評価分析を行うものである。

能力特性評価テスト

■課題解決能力の概念的定義



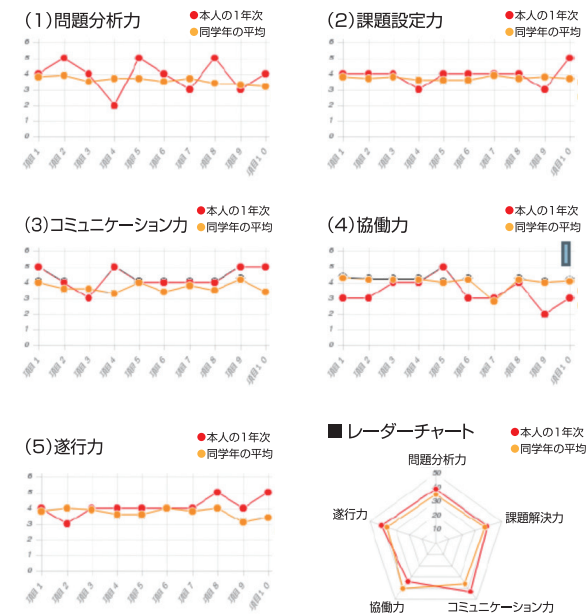
■能力特性測定項目(5尺度50項目の一部)

- [01] 目的や目標と照らして、何が問題であるか見出すことができる
 そのとおり | だいたいそのとおり | どちらともいえない | ややちがう | ちがう
- [02] 問題解決に向けて、手順や方法を考え計画を立てることができる
 そのとおり | だいたいそのとおり | どちらともいえない | ややちがう | ちがう
- [03] 相手に自分の言いたいことがきちんと届くように話すことを心がけている
 そのとおり | だいたいそのとおり | どちらともいえない | ややちがう | ちがう
- [04] メンバーの意見をよく聞き、お互いを理解し合うように心がけている
 そのとおり | だいたいそのとおり | どちらともいえない | ややちがう | ちがう
- [05] 課題を解決するために計画を立てて行動することができる
 そのとおり | だいたいそのとおり | どちらともいえない | ややちがう | ちがう

尺度別項目例

[01] 問題分析力 [02] 課題設定力 [03] コミュニケーション力
 [04] 協働力 [05] 遂行力 以下省略

■能力特性評価テスト・プロフィールチャート



能力特性評価テストの有用性

■能力特性評価テストの効果：

エビデンスに基づいて論理的にきめ細かい
 学生指導ができる。

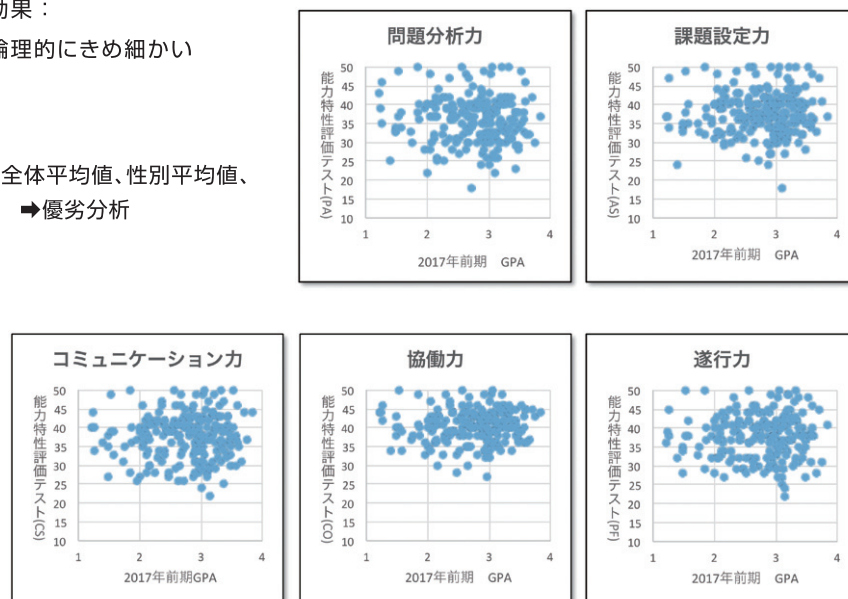
(1) 基礎分析

能力特性別個人得点と全体平均値、性別平均値、
 学年別平均値との比較 → 優劣分析

(2) 尺度別GP分析

(3) 他要因との関連分析

学業成績(GPA得点)と
 能力特性評価テストと
 の関連分析、就職先デ
 ータと能力特性評価テ
 ストとの関連分析 等



ALL富山COC+人材育成ビジョンの全県展開

富山県内の全ての高等教育機関は、富山の地方創生を目指して地域と一体となって「ALL富山COC+」事業に取り組んでいる。その中でもっとも重要な取組が、地域に定着し活躍する「未来の地域リーダー」の輩出である。

県内高等教育機関がそれぞれの特徴を活かして地域と強く連携し、地域課題解決能力を備えた「未来の地域リーダー」育成に取り組んでいる。

ALL富山
COC+
人材育成
ビジョン

「未来の地域リーダー」になるために、
 富山県内の大学・短大・高専が連携して実施している取組を紹介



※大学コンソーシアム富山の授業科目・単位互換科目(予定)

1 とやま塾

平成29年9月12日(火)～14日(木) 南砺市利賀村(スターフォレスト利賀 他)

富山大学、富山県立大学、富山国際大学の学生12人が参加。南砺市利賀村の過疎問題、少子高齢化等、地域課題に対する認識を深め、その解決策を探った。

【1日目】

「利賀村基礎講座」では、「瞑想の郷」の浦辻一成館長が利賀村と加賀藩との関わりや、煙硝、絹、林業等、基幹産業の変遷を紹介した。利賀地域ふるさと推進協議会の野原宏史会長は、TOGA国際芸術村を核としたクリエイティブビレッジ構想や地域資源を活用した南砺市エコビレッジプロジェクト等について説明し、山村留学や芸術家、都市部の学生、外国人観光客との交流をさらに拡大させたいと話した。

学生たちは班ごとに分かれ、それぞれに「地域おこし協力隊による利賀の活性化(1班)」「利賀農業推進計画(2班)」「宿舎地としての地域活性化(3班)」というテーマを設定した。

夕食会には南砺市の田中幹夫市長、富山大学の遠藤俊郎学長、鈴木基史理事・副学長、富山県立大学の石塚勝学長、富山国際大学の中島恭一学長らが出席した。

【2日目】

富山県利賀芸術公園では、学生たちが野外劇場等スケールの大きい舞台芸術施設群を見学。世界の演劇人から「演劇の聖地」と称されるようになるまでの地道な取組等、演劇や舞台芸術による成功事例を学んだ。

ネパール王国・ツクチェ村との有効のシンボルとして建設された「瞑想の郷」では、巨大な曼荼羅等を見学し、瞑想も体験した。「そばの郷」ではそば打ちに、農家の畑ではウドの株分けに挑戦。ふだん味わうことのない経験に笑顔を見せていた。夜には、利賀で活躍する移住者との懇談会が開かれた。

【3日目】

最終日は、学生たちが利賀地域の課題解決につながる成果発表を行った。地元住民も参加し、学生の視点から考える問題解決の糸口に耳を傾けた。閉塾式では、3大学・学長名による「とやま塾 in TOGA修了証」が授与された。



参加学生のコメント

●蛭田 哲也さん (富山大学 経済学部3年 岐阜県出身)

利賀は若い人や移住者の意見を取り入れてくれる風土があります。それを活かし、民間企業が農業に介入して人口や働く場が増えれば、「利賀モデル」として全国発信できると思います。

●土屋 樹さん (富山県立大学 工学部3年 静岡県出身)

「山奥の小さな地域」と思っていた利賀の印象が、「活発な地域」に変わりました。住民の強い熱意があり、支援体制が整った地域だからこそ、面白い発想を持った人が集まってくるのだと思います。

●大崎 はるきさん (富山国際大学 子ども育成学部4年 富山県出身)

住民との懇談会では、「若い世代にもっと頑張ってもらいたい」という思いを感じ取りました。今回は、他大学の学生と交流し、共に考える時間を持つことができて、とても刺激になりました。

1 合同企業訪問(大学コンソーシアム富山主催)

専門分野や学年が異なる他大学等の学生と共に、社会人としてのマナー、富山県の魅力や県内企業について事前学習を行い、実際の就業現場を見学し、そこで働く大学OBや県外から就職した若手社員との意見交換等を行うことにより、県内企業の魅力を知り、就業意識の向上を図ることを目的に、富山県と県内全ての高等教育機関が連携し、大学コンソーシアム富山が主催している事業である。

●スケジュール	【平成27年度】	平成27年9月14日	コース別ミーティング	
		平成27年9月18日	企業等職場訪問研修(18社2機関)	参加学生 147人
	【平成28年度】	平成28年9月 9日	コース別ミーティング	
		平成28年9月16日	企業等職場訪問研修(17社3機関)	参加学生 176人
【平成29年度】	平成29年9月15日	コース別ミーティング		
	平成29年9月20日	企業等職場訪問研修(16社2機関)		参加学生 141人
	平成29年9月22日	企業等職場訪問研修(15社)		参加学生 128人

富山大学 〈地域定着プログラム〉

1 富山県内優良企業による「学内合同企業説明会」

企業担当者と直接話をするを通して、県内企業の魅力を知ってもらうことを目的として、富山県中小企業団体中央会との連携により開催している。

●対象学生	4年生、修士2年生中心(卒業・修了予定者対象)
●スケジュール	【平成28年度】 平成28年9月17日(土) ・参加企業 99社 学生 延べ64人参加
	【平成29年度】 ①平成29年5月20日(土) 午後の部:10:00～12:30 ・参加企業 40社 午後の部:13:30～16:00 ・参加企業 39社 学生 延べ59人参加
	②平成29年9月6日(水) 13:30～16:00 ・参加企業 40社 学生 延べ31人参加



参加企業の声

●私も富山大学出身ということもあり、自分自身の立場に置き換え、学生の気持ちを理解して説明に当たりました。弊社には富山大学のOB、OGも多く、富山大学生はマナーも良く、明るくはきはきしているところが評価されています。今回は営業職、生産技術職に絞り、時期的にも採用を意識した説明会でしたが、手応えは十分にありました。

●弊社主力の医薬品パッケージ印刷では、ジェネリックメーカーの量産体制に対応するため、新工場での生産体制を強化して業務拡大を図っていることから、社会貢献度の高いやりがいのある仕事だとお話しました。地元企業といえども、営業は全国展開です。真面目なイメージの強い富山大学生には、積極性をアピールしてほしいですね。

●様々な学生が集まる合同説明会と違って、富山大学の学生対象なので、業務内容など具体的に絞って説明ができる所が良いですね。弊社が求めているのは、積極的にコミュニケーションがとれる人材です。学生の熱意も感じられ、「見学に来たい」という学生もいて、参加したメリットは十分にありました。

●富山の学生に、地元の産業や地方でも頑張っている会社があるということを知ってもらいたい機会になると思い参加しました。一度は目にしたことがある製品に、実は弊社の高い技術で作った生地が採用されていること、南砺市をはじめ県西部が日本最大の経編ニットの産地であることを伝えました。学生が興味をもって聞いてくれるので話しやすかったですね。



説明会の各ブースでは就職活動真っただ中の学生たちが、熱心に採用担当者の説明に聞き入り、質問を投げかけていた。



参加学生の声

【大学院 理工学教育部2年】

就活を進めるうちに自分のやりたいことがぼやけてきたこともあり、今回は自分が希望する職種につける業界を幅広く知りたいと思って参加しました。大規模な合同説明会では時間制限があってじっくり聞くことができないようなことまで、今回はしっかり聞けました。富山で働くからには、地元で貢献できる企業に就職したいと思っています。

【人文学部4年】

営業職を希望しています。これまでの就活で見てこなかった業界を広く知りたいたいと思い参加しました。今まで知らなかった新技術で活躍する企業を知ることができました。富山大学の学生に高い採用意欲を持つ企業が参加しているので、どんなことも聞きやすく、また採用担当者の方も北陸の人ばかりなので、共感できる部分が多いのもよかったです。

【人文学部4年】

富山をはじめとする北陸の企業に就職したいです。住宅関連を希望していますが、いろんな業界や企業を知り、視野を広げるのが今回の参加目的です。今日は、このあと個別に面接試験を受けていこうと思う企業が何社かありました。自分の興味関心だけでなく、休日や残業、働きやすさも気になります。



2 富山県内中小企業等による「個別企業説明会」

企業担当者と直接話をするを通して、県内企業の魅力を知ってもらうことを目的に、富山県中小企業団体中央会と連携して開催している。

●対象学生	4年生、修士2年生中心（卒業・修了予定者対象）
●スケジュール	【平成28年度】平成28年6月～10月（8月は除く） 毎週実施 参加企業 61社 学生 延べ49人参加
	【平成29年度】平成29年6月～10月（8月は除く） 毎週実施 14回 参加企業 56社 学生 延べ41人参加

3 県内就職支援セミナー

学生・教職員に対し、富山県の魅力や富山県の産業や企業の魅力等を情報発信することで、富山で働き続けることの優位性、さらに県内中小企業の魅力を伝え、地元就職意識を向上させ、県内企業への就職・定住を促進することを目的に、富山県と連携して開催している。

●スケジュール	【平成27年度】①教職員対象セミナー	平成27年12月25日	25人参加
	②学生対象セミナー	平成28年 1月13日	86人参加
		平成28年 1月20日	65人参加
	【平成28年度】①学生対象セミナー	平成28年10月12日	67人参加
	②教職員セミナー	平成28年12月26日	22人参加
	【平成29年度】①富山県内企業紹介セミナー	平成29年12月20日	文系60人参加 理系46人参加

県内企業のOB・OGとの交流会

平成29年12月20日に開催されたセミナーでは、文系対象、理系対象に分かれ、それぞれ18社の企業等から卒業後5年以上のOB・OGが出席し、企業・業界の概要、働いて感じたこと、県内企業で働く魅力等について熱心な説明があった。参加した学生からは、OB・OGから、直接、県内企業で働くことの魅力などを聴き、冊子やネットでは得られない情報を聴くことができて良かったとの感想が聞かれた。

4 県内企業の海外展開に学ぶグローバル人材の育成

この事業は、地元企業と連携し、海外に進出している現地事業所等の見学や従業員等との交流を通じてコミュニケーション能力、異文化理解力を涵養し、将来的に海外で活躍する地元企業への就職につなげることを目的に実施している、海外キャリア研修、海外実務研修である。

【平成27年度】	①平成28年3月16日～19日 中国:大連 学生8人参加
	②海外展開する県内企業の事前調査 平成28年3月7日～10日 タイ:チェンマイ、バンコク
【平成28年度】	①富山県、県内企業連携による海外実務研修 平成28年8月20日～9月3日 中国:学生6人参加
	②平成29年2月20日～24日（田中精密工業㈱の協力） タイ:バンコク、ランブーン 学生5人参加
	③平成29年3月15日～18日（㈱北陸銀行の支援） 中国:大連 学生8人参加

海外（タイ・中国）キャリア研修報告会 平成29年4月26日

遠藤富山大学長をはじめ同大教職員・学生のほか、協力企業関係者が出席し、研修生が「研修で得られた成果」について発表した。研修生は、海外で活躍する人々や学生との交流を通じ、コミュニケーション能力、異文化理解力を学び、グローバル社会で活躍することへの意識向上を図る機会を得たことへの感謝と次へのステップにつなげたい旨の意欲を述べた。

5 女子学生の地元定着支援

この事業は、20代の女性の県外転出超過が大きことから、富山県内企業等や地方公共団体で活躍する女性管理職と女子学生との出会いや情報交換の場を設け、堅実なライフプランに基づいた永続的なキャリアビジョンの形成を目的として開催している。

【平成28年度】・「講演会」	平成28年 8月 3日(水):	学生4人 教職員9人参加
・「女性が輝く職場訪問」	平成28年10月26日(水): 全日本空輸(株)富山空港所	21人参加
	平成28年11月 9日(水): ㈱ホライズンホテル 富山ホテル事業所	
	ANAクラウンプラザホテル	22人参加
	平成29年 2月 8日(水): ㈱北陸銀行実施予定	12人参加
【平成29年度】・「女性が輝く職場訪問」	平成29年11月 1日(水): YKK(株)	11人参加
	平成29年11月15日(水): ㈱インテック	8人参加
	平成29年12月 6日(水): ㈱広貫堂	4人参加
	平成29年12月13日(水): ㈱リッチェル	8人参加

平成29年11月15日「女性が輝く職場訪問」

学生8人（女子7人・男子1人）が、株式会社インテックの本社（富山市牛島新町）を訪問し、IT業界や同社の事業内容、社員の働き方について理解を深めた。講師は女性管理職や富山大学OGらが務め、活発に意見交換する場面が見られた。

はじめに人事部採用担当の井林純さんが、IT業界の特徴と、その中でインテックがどのような役割を果たしているかについて、具体的な取り組みを挙げながら紹介した。

富山大学経済学部の卒業生でもある井林さんは「インテックは地域の課題を解決し、地域の未来を創っています。お客様の課題を発見し、ビジネスをつくるにはコミュニケーションが大切です。自分が得意とするコミュニケーションの方法を把握して、実践しましょう」と助言を送った。

続いて女性管理職を代表し、北陸地区本部北陸品質保証部長の中陳実佳さんが講演した。1987年に入社して以来、新人時代の経験から、技能資格を取ってステップアップしてきた過程、管理職としてチームで仕事をする際の注意点等30年間のキャリアについて語った。

中陳さんは「プロセスを改善していく仕組みを作らないと楽にならないし、成長もしません。自分がいなくても業務が滞りなく継続できることが大切です」と述べた。

その後、中陳さん、人事部の新村敏美さん、北陸地区本部 金融システム部の南桂子さんを囲んで座談会が行われた。

新村さんは「出産後にキャリアを積んでいる人もいます」と女性の仕事と育児のあり方について話した。

南さんは「独身でも子供がいても、出張をこなしてバリバリ働いている人もいます。子供が小さいうちは家庭重視で仕事量を抑える人もいます」と話した。

学生からは「文系ですが、プログラミングなどの業務についていけるのでしょうか?」「男性社員でも育児休業制度を活用している人はいますか?」等の質問があり、中陳さんらは自身の体験を交え、親身に回答した。

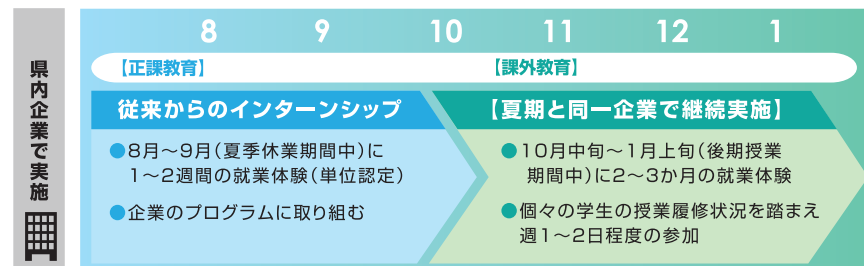
最後に、学生たちは自身の生活の中からKeep（続けること）、Problem（不満点、問題点）を書き出し、今後、Try（試すこと、工夫したいこと）することをKPT表にまとめ、その発表を行った。職場訪問を終えた学生らは「どの方も『コミュニケーションが重要』と話されたのが印象的でした」と話した。

この「女性が輝く職場訪問」は、女性の登用や能力の向上への取り組みに積極的で、女性が職場で活き活きと活躍する企業を訪問するもので、本年度はYKK(株)、インテック、廣貫堂及びリッチェルを訪問した。



6 中・長期インターンシップ

学生の県内定着促進のため、夏季休業期間中に実施する正課の就業体験（1週間～2週間）と、後学期授業期間中に実施する課外の就業体験（2～3か月）を併せたインターンシップ（同一企業）を、キャリア形成のための中・長期インターンシップと位置づけて実施している。



●対象学生 3年生、修士1年生中心（参加1企業につき数人程度）

- スケジュール
- ①4月下旬～7月下旬
 - ・インターンシップ説明会（中・長期インターンシップも併せて説明）
 - ・マナー講習、企業研究及び事前指導、保険加入の確認
 - ②8月上旬～8月下旬
 - ・夏季休業期間中に1～2週間の就業体験
 - ・企業プログラムに組み込む（現場実習等）
 - ③9月下旬～10月上旬
 - ・事前と事後の接続（インターンシップ活動の振り返りと今後に向けての検討）
 - ・就業体験に向けた面談（長期インターンシップ期間を含め3回程度実施）
 - ④10月中旬～1月上旬
 - ・後学期授業期間中に3か月の就業体験
 - ・個々の学生の履修状況を踏まえ週2日程度企業へ（日常業務に組み込む）
 - ⑤1月～2月
 - ・企業からの評価
 - ・新たなインターンシップ報告会（就業体験の振り返り及び学びの意義等）



●受入企業

【平成28年度】

企業名	事業概要	参加学生
株式会社 北日本新聞社	新聞の発行	経済学部 3年 2人
株式会社 富山村田製作所	電子部品の開発・設計・生産（圧電セラミックス）	工学部 3年 2人
株式会社 ジェック経営コンサルタント	コンサルティング業務（経営・人材・販売促進等）	経済学部 3年 1人
ANAクラウンプラザホテル富山	宿泊・レストラン・ウェディング等	人文学部 3年 1人

【平成29年度】

企業名	事業概要	参加学生
富山県庁	地方行政	人文学部 3年 2人
株式会社 北日本新聞社	新聞の発行	人文学部 3年 1人

●実施内容

受入企業	課外のインターンシップ
株式会社 北日本新聞社	【11～1月 週1～2回のペースで勤務】フリーマガジンの作成業務補助
株式会社 富山村田製作所	【10～12月 週1回のペースで勤務】引続き新商品開発部署での実験解析等
株式会社 ジェック経営コンサルタント	【11～12月 週1～2回のペースで勤務】取引企業との打合せ参加や議事録作成等
ANAクラウンプラザホテル富山	【10～12月 週1回のペースで勤務】カフェや宿泊等ホテルの幅広い業務

参加学生の声（長期インターンシップを振り返って）

【北日本新聞社 経済学部3年】

- 中・長期インターンシップで責任ある仕事を任せられ、自分のしたことが目に見える形で現れることによって仕事の一つひとつにやりがいを感じる事ができた。
- 常に周囲に気を配り、優先順位を考え仕事を行うことが大事だと分かった。
- コミュニケーション（簡潔に正確に伝えること）の重要性を再確認した。

【富山村田製作所 工学部3年】

- 中・長期のインターンシップでは通常のインターンシップよりも長い期間その会社の仕事に関わることができるため幅広い分野の業務を経験できた。さらに実際に働いている人と話す機会も多くなるため自分が働く時のイメージがより明確なものとなった。

【ジェック経営コンサルタント 人文学部3年】

- 何事も最初は大変ではあるが、基礎ができるようになって初めて自分の得意不得意、武器になるものが見つかる。その武器を使えるようになれば仕事に対する見方が変わり、楽しさが見えてくることが分かった。

【ANAクラウンプラザホテル 経済学部3年】

- 中・長期のインターンシップにも参加したことで、自ら考えて動く余裕ができ、そこでの気づきや学びを次の実習で生かす、というサイクルを確立できたことは大きかった。

評価

- 中・長期インターンシップ中にコーディネーターを含めた学生の振り返りの時間を持ったため、何を意識して次の実習に臨めばいいかを確認できたことは、学生側・企業側双方から好評であった。
- 長期にわたって、責任ある実際の業務を任せられるため、学生が本当に企業に貢献できているとの実感・やりがいを感じやすかった点が好評であった。
- 中・長期インターンシップにより、仕事に対する地に足がついた具体的なイメージを学生が持つことができた。
- 実際に働いている人と長期にわたって交流することで、学生が社会人とはどういうものかのイメージを自分に重ね合わせ、具体的に掴むことができ、現在の自分に足りないものを意識できるようになった。
- 学生だけでなく、学校側も事前・事後の挨拶・打合せを丁寧に行ったため、初の試みであるにもかかわらず、学生の受入実習にあたり大きなトラブルは生じなかった。（夏季インターンシップですら、しばしば受入企業と学生との間にミスマッチの問題が生じることがある）
- モノづくりの現場で長期にわたって実際に商品開発に携わり、ユーザーの目線の重要さと技術の緻密さに触れることで、学生の仕事に対する意識を格段に高めることができた。
- 実際の現場に触れることで、学生が自分に今何が足りないかを自覚させることができた。
- 取引先の多くの業種の企業の人達と接することができ、学生の視野を広げることができた。

課題

- 学生をじっくり参加させることができた実習期間に比べ、実習終了時から報告会までの時間や、発表練習時間が確保できなかったため、実習したことを十分に表現できたかどうか不安が残る。
- 繁忙期であったこともあり、学生の中・長期インターンシップ期間中に学生の視察に行くことができなかったため、現場で学生の状態を実際に自分の目で確認することができず、事後報告一辺倒になった。

受入企業の評価・感想

【北日本新聞社】

- 大きな戦力になり、大変感謝している。地味な作業が、根幹に関わる一番大事な仕事だということを理解していただいて大変うれしい。是非来年も受入りたい。

【富山村田製作所】

- 一般的にインターンシップは企業・学生双方に負担がかかるものであるが、今回の中・長期インターンシップはうまく対応できていたと感じる。一旦大学に戻って仕事のことを考える機会を持てたのは良いと思った。また、学生がモノづくりの現場で実際に働くということを実感できたのではないかと考えている。

【ジェック経営コンサルタント】

- 初めての試みということもあり、こちら側にも不手際があって学生に対して少し申し訳なかった。他の企業さんの事例も見て来年度の参考にしていきたい。

【ANAクラウンプラザホテル】

- わずかでも学生がこの業界に興味を持ってくれるお手伝いができたのであれば大変うれしい。

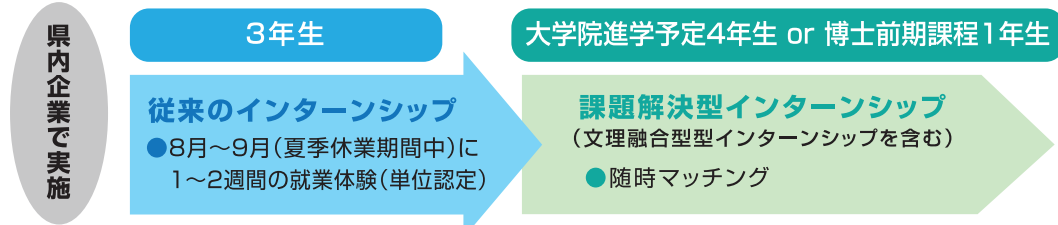
1 課題解決型インターンシップ

「とやま人材育成を考える会」を開催し、参加企業を核にして、課題解決型インターンシップを実施している。このインターンシップにおいて、従来のインターンシップの目的に加え、次の2点を目指している。

- 1.課題を見つけ、グループワーク力とともに自ら解決しようとする力を養う。
- 2.課題解決に取り組むことで、学生が達成感を持ち、当該企業に愛着を持つ。

対象学生は、原則、大学院進学予定の4年生と博士前期課程1年生としている。

平成28年度は県内企業4社において8人の学生が、平成29年度は県内企業6社において13人の学生が課題解決型インターンシップに参加した。



●受入企業 【平成28年度】

企業名	参加学生
YKK株式会社	M1 3人
三協立山株式会社	M1 1人
日本海ガス株式会社	M1 1人

【平成29年度】

企業名	参加学生
三菱ふそうバス製造株式会社	M1 1人
株式会社アイザック・マネージメント・サポート	3年生 1人
株式会社プレステージ・インターナショナル	3年生 3人、4年生 1人、M1 1人
YKK株式会社	3年生 1人、M1 1人

1 文理融合型インターンシップ

富山国際大学の学生(文系学部生)と富山県立大学の学生(理系大学院生)による、新たなインターンシップを実施した。情報技術提供サービス企業からは、「新製品開発の需要調査とそれに基づく技術的提案」を趣旨とする課題が示され、トータル3か月間に、富山国際大学学生が市場調査及び需要予測を担当し、富山県立大学院生がその結果に基づく製品開発の提案を行うこととなった。

それぞれの学生にとって異分野の学生との協働研究ということで、それまで経験したことのない刺激を受け、同時にその成果は、「文理融合」によって初めて得られるものとして結実することを期待している。

●受入企業 文理融合課題解決型インターンシップ

【平成28年度】

企業名	参加学生
株式会社インテック	4年 2人、M1 1人(富山県立大学)
	3年 3人(富山国際大学)

【平成29年度】

企業名	参加学生
日本海ガス株式会社	M1 1人(富山県立大学)
	3年 1人(富山国際大学)
株式会社インテック	M1 2人(富山県立大学)
	3年 2人、2年 1人(富山国際大学)

1 新たなインターンシップ報告会

●平成28年度「新たなインターンシップ報告会」

ALL富山COC+の事業展開の一環として、平成28年度より富山大学、富山県立大学、富山国際大学で新たなインターンシップ(中・長期インターンシップ、課題解決型インターンシップ、文理融合型インターンシップ)の開発を行い、県内企業8社の協力を得て合計17人の学生が参加した。

これらのインターンシップの成果を発表し、広く県内企業に周知するために、平成29年1月20日(金)に、富山国際学園サテライト・オフィス「地域交流センター」で「新たなインターンシップ報告会」を3大学合同で開催した。

報告会では、インターンシップに参加した学生から7件の報告があり、受入企業からの人事担当者や多くの関係者等も参加し、学生の報告を受けてこれらのインターンシップにおける様々な課題について意見交換を行い、今後の実施に向けて検討を行った。



新たなインターンシップの実習報告をする学生

●平成29年度「新たなインターンシップ報告会」

平成30年1月26日、県内企業8社の協力により富山大学・富山県立大学・富山国際大学の学生25人が参加して「新たなインターンシップ報告会」を開催した。

参加した学生からは「どの仕事でも責任を持って行わなければならない。社会人と定期的に会うことができ、勉強になった。報告・連絡・相談の重要性を実感し、考えて工夫する自分の力に気づくことができ、やりがい、喜び感じた。」など感想を述べた。

今後、企業担当者と実習の中身について相談し、拡大していくこととしている。



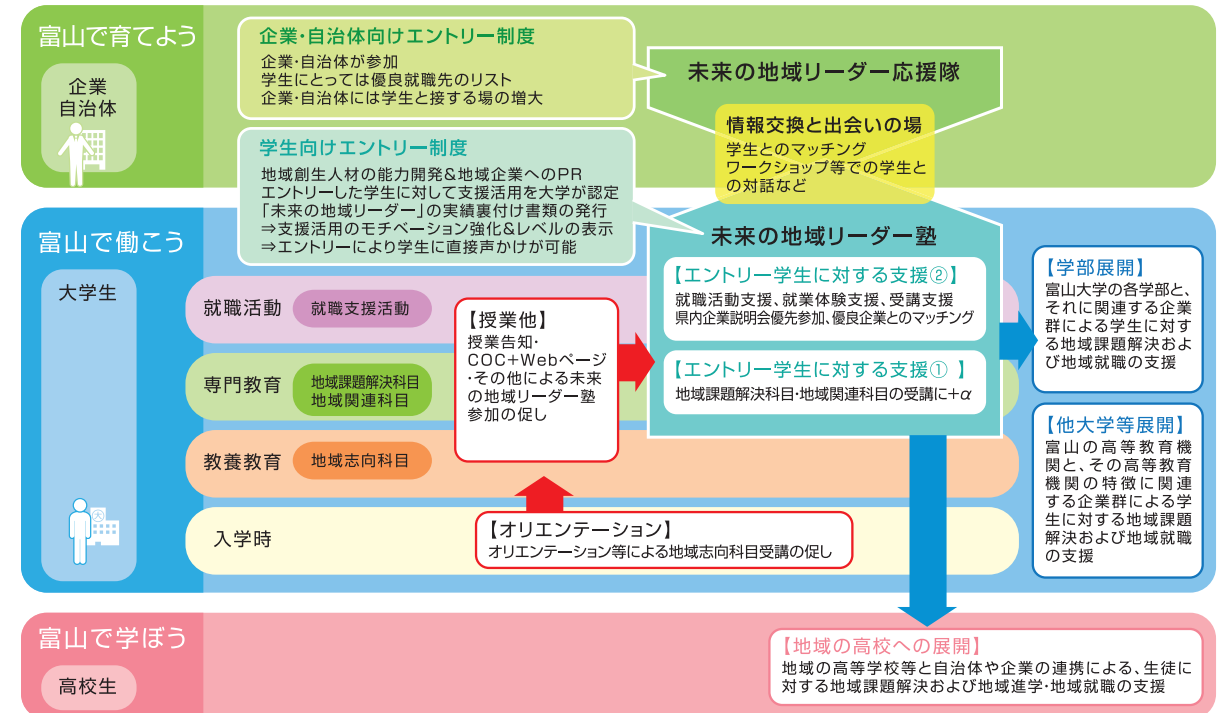
1 「三位一体」のキャリア教育の核となる「インターンシッププログラム」

平成29年度は、平成29年11月28日(火)にインターンシップ学内発表会を行った。

1 企業研究会

1 未来の地域リーダー塾

地域で自律的な活動ができる人材を優先的に育て、地元定着を促す



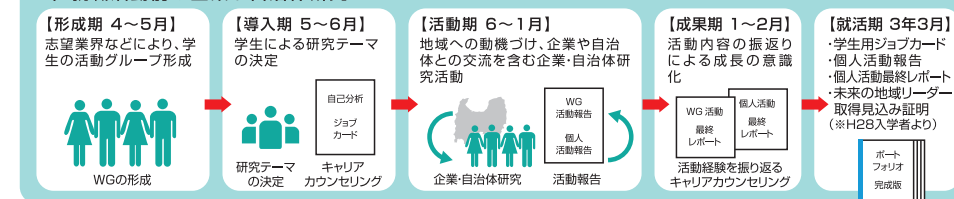
【地域定着プログラム】

3-4年:就職活動・キャリア形成

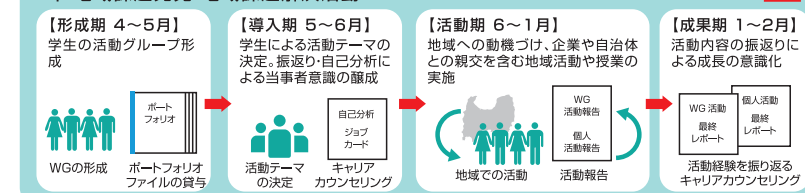
- ・合同企業説明会 ・個別企業説明会 ・女子学生支援 ・県内就職支援セミナー ・企業留学生交流会
・インターンシップ ・中長期インターンシップ ・合同企業訪問 ・海外キャリア研修

【未来の地域リーダー塾】

3年:就職活動前の企業や自治体研究



2年:地域課題発見・地域課題解決活動



【未来の地域リーダー】

専門:地域課題・地域の専門領域

地域課題解決科目、地域関連科目

教養:地域を知る・愛着を持つ

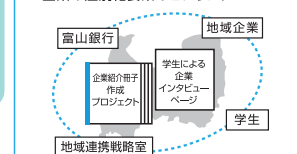
地域志向科目(新設科目:富山学、地域ライフプラン、産業観光学を含む)

取組例

■企業詳細冊子作成プロジェクト
富山銀行が学生と企業の橋渡しを行い、未来の地域リーダー塾生による企業インタビューを含む、地域企業紹介冊子を作成

- ・銀行のソリューション活動を実体験
- ・学生の記事が出版物になる成果
- ・銀行担当者・企業担当者との関係構築

- ・地域で働く豊かさのインタビュー
- ・企業の差別化要素のヒアリング



■專門教育

【内発的動機づけ】

- 地域再生論演習
 - ・課題解決策を自ら策定・プレゼン
 - ・説明、視察、調査による策定力発揮
 - ・市職員のサポート

【外発的動機づけ】
○地域再生論
・地域に貢献する働き方(地域課題解決)

■教養教育

【外発的動機づけ】

- 地域ライフプラン
 - ・都会よりも高い可処分所得
 - ・家族との豊かな時間(短通勤時間)
- 産業観光学
 - ・ニッチトップ企業の紹介
 - ・企業の特徴の見学

2 経営支援セミナー、ビジネスプラン作成講座、とやまビジネスプランコンテスト

●連携先

富山市新産業支援センター、独立行政法人中小企業基盤整備機構北陸本部、公益財団法人富山県新世紀産業機構、富山県中小企業団体中央会、富山商工会議所

中小企業者、創業者や起業家、インキュベーション施設入居者、起業家を目指す学生、経営に興味のある一般の方等のため、自ら発明し、ベンチャー企業に技術移転を行った「企業～企業成長」の事例を踏まえながら、アントレプレナーシップ(起業家精神)について解説し、人の生き方と企業の成長過程について考え、学ぶ機会を提供する。

ビジネスプランの作成に必要な基本的知識や効果的なプランの作成方法について、修得する。

地域ビジネスに貢献する人材を育成するため、優れた事業計画を持つ学生を対象に発表の場を提供し、ベンチャーマインドに富む人材教育の促進を図る。地域社会に貢献する新しい事業を育成するため、独創的な事業計画を持つ人を対象に発表の場を提供し、起業化(大学発ベンチャーを含む)の促進を図る。

○経営支援セミナー

15人の参加者があり、実際の体験談やチャレンジ精神の大切さ等、参加者から大変勉強になったとの意見があった。

○ビジネスプラン作成講座

テーマごとに6回開催し、11人から16人の参加者があり、ビジネスプランの基本的な事や様々な事例を聞くことができ、大変参考になったとの意見があった。

○ビジネスプランコンテスト

応募総数は22組29人(うち学生10組17人)あり、一次審査を通過した学生部門、一般部門あわせて12組が工夫を凝らした独創性あふれるビジネスプランを発表した。県内外の産業界等から招聘した15人の審査員からは、的確なアドバイスや時には厳しい質問も飛び交い、発表者が懸命に応答する場面もあった。学生部門、一般部門それぞれ、最優秀賞1件、優秀賞2件ほか奨励賞が選ばれた。

また、一昨年度から設けられた「特別賞『富山ニュービジネス協議会賞』」には、学生部門と一般部門の全ての発表者の中から優れたアイデア1件が選ばれた。同賞受賞者に対しては、同協議会により、起業支援から株式上場支援に至るまで、要望に応じた支援が行われる。

さらに、今年度から提携した国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)主催のTechnology Commercialization Programの一次審査通過相当プランについて、同プログラム規定の起業前対象により学生部門の発表者の中から1件の該当プランが「特別賞『NEDO賞』」として選出された。同賞受賞者に対しては、同プログラムによる二次審査に向けた集合研修や個別指導、投資家や企業等とのネットワーク構築機会の提供、二次審査会での発表、最終審査会におけるポスター発表の機会が与えられる。

・学生部門の最優秀賞:富山県立大学「富山県の観光地から眺める星空写真の商品化」

・特別賞「NEDO賞」:北陸職業能力開発大学校「富山発!日常に安心生活をもたらす世界初の便看視ユニット」

新しいビジネスプラン、独創的な・優れた事業計画を支援し、地域ビジネスの創出に貢献することで、地域の雇用創出や地域力の向上などに繋がる事業である。とやまビジネスプランコンテストは、このきっかけとなり、事業を支援するもので、雇用創出には至っていないが、新たな事業として展開している者もいる。



3 インターンシップガイド(富山県インターンシップ推進協議会)

富山県では平成12年度から、企業・学校・行政など産学官の関係機関からなる富山県インターンシップ推進協議会を設立し、県内統一したシステムでインターンシップを推進している。

富山県インターンシップ推進協議会は、「自分の適性や職に就くとはどういうことなのかを体験し考える機会」を学生に提供し、「将来進むべき方向を見極める」、「学んでいる学科・科目の検証をする」ことへの支援を目的としてインターンシップ事業活動を実施している。「学業の一環」としてインターンシップを実施していくため、ALL富山COC+事業推進連合会と協力して「富山版インターンシップガイド」を作成し、平成29年度より、県内高等教育機関におけるインターンシップ説明会で配布活用している。



富山大学

1 留学生支援

○外国人留学生と海外展開に関心のある県内企業経営者との交流会

外国人留学生と海外展開に関心のある地元企業経営者等が互いに理解を深める場として交流会を開催

【平成28年度】	第1回:平成28年 6月21日(水)開催	留学生15人	参加企業10社
	第2回:平成28年11月10日(木)開催	留学生15人	参加企業 8社
【平成29年度】	第1回:平成29年 6月23日(金)開催	留学生13人	参加企業 9社
	第2回:平成29年11月10日(木)開催	留学生14人	参加企業 7社

○富山県留学生等交流推進会議 パネルディスカッション

平成29年6月21日(水)、富山大学黒田講堂会議室において、「外国人留学生と地域活性化」をテーマにしたパネルディスカッションを開催した。

意見交換に先立ち、尾山特准准教授が富山大学COC+の現状と取組の概要を紹介。廣瀬雇用対策係長は富山県が取り組む外国人留学生の県内就職促進について説明した。引き続き県内企業に就職した外国人留学生OGのリナウド・マルタさんが、富山県で外国人が働き暮らす魅力を語った。

パネルディスカッションでは、会場の参加者と共に、地域活性化や地方創生の観点から、外国人留学生の県内定着について意見交換を行った。

●外国人留学生OGプレゼンテーション

テーマ「富山に学び富山で働く」 株式会社能作 産業観光部産業観光課 リナウド・マルタ 氏

トリノ大学(イタリア)を卒業後、文部科学省国費外国人留学生奨学金・日本語・日本文化研修生として平成26年10月から平成27年9月まで、富山大学で研究活動に取り組んだ。元々、祭に興味があり、特に獅子舞を研究したいと思って富山に来た。日本で初めて訪れたのは金沢だった。とても良いところだが、私は富山を選んだ。日本語の勉強も、日本での生活も、私にとってすべてチャレンジで、とても良い経験になった。富山大学で学べて本当に良かったと思っている。留学期間中、友達もたくさん増え、富山が大好きになり、富山で就職したいという気持ちが強くなった。そんな時、富山企業説明会で(株)能作を知り、社長と出会ったことが就職につながった。

能作は高岡の伝統産業で、外国人の社員は私しかない。専門用語や社会人としてのマナーなど勉強することがたくさんあるが、周りの人たちに相談にのってもらっている。高岡市民となり、高岡で生活を始めたのは、去年の8月。町内の皆さんとも交流があり、ゴミを出す日も教えてもらったりしている。言葉を知らず、文化もわからないと、コミュニケーションをとるのは難しい。でも、それが私のやりたかったこと。気持ちを日本語で伝えたいし、日本の文化をもっと学びたい。チャレンジしたいという気持ちはどんどん強くなっている。



2 富山銀行との連携による企業紹介冊子「企業研究～富山で輝く優良企業」

富山大学と富山銀行が協働プロジェクトとして、学生向けの県内企業紹介冊子「企業研究～富山で輝く優良企業」を作成した。富山大学の学生ほか、ALL富山COC+に参加する高等教育機関にも配り、講義や就職活動に活用してもらう。意欲的な県内の企業情報を提供することで、学生に県内での就職を促進し、地元定着を図ることが目的であり、同時に、人材・人手不足の課題を抱える県内企業とのマッチングにつなげることで、地方創生を目指している。「未来の地域リーダー塾」の学生5人が、富山銀行の支援を受けて取材を行い、インタビュー記事を執筆した。誌面には「実際に取材すると、思っていた業種や企業イメージと違って」「企業の方に直接話を聞くことができ、面白かった」「県内の中小企業によい印象を持つことができた」等、参加した学生の感想も掲載されている。

企業紹介のページには、同行の担当者が各企業を推薦する理由や、求める人材、学生へのアドバイス等を掲載している。金融機関の専門的な目線が活かされており、学生がより親しめる内容になるよう工夫を凝らしている。



3 富山県機電工業会の人材ワーキンググループ

富山県機電工業会は、「富山県ものづくり基盤研究委員会」を設置し、その中に富山県のものづくりの課題に対し、産・学・官・金が連携してその克服に向けた各種調査・施策の立案・提言等を行うため、各界の有識者から成る評議会を組織した。その評議会の下部組織として、アルミ・機械システム・電子部品のWGを設置し、分野ごとに富山県のものづくりの目指すべき方向性を明確化し、そのための施策を提言すべく、検討を重ねてきた。各WGからの報告の中に、人材に関する多くの要望事項が出され、かつ、共通課題として取り組むべきとの結論となったため、新たに人材WGを設置することになった。このWGに富山大学からは就職・キャリア支援センター及びCOC+統括コーディネーターが参加し、地域のものづくりの魅力を学生に伝え、地域定着を促進する施策を協議している。

1 富山県進学パンフレット

平成28年度
「僕らの情熱はあたらしい富山をつくる」

「富山の魅力再発見!」をコンセプトに、大学コンソーシアム富山の広報委員会と連携して、中学生・高校生向けの進学パンフレットを作成した。

大学コンソーシアム富山の広報委員会の下に県内学生が集って「学生による意見交換会」を2回開催し、その意見等を踏まえてパンフレットを構成した。

主に県内高校生を中心に、県内中学生、隣接県の高校生もターゲットにパンフレットを配布し、デジタル版や関連動画も公開することで、スマホ世代の高校生に手軽に見てもらえるようにした。

平成29年度
「全全全部トヤバーまだ、見たことのない富山を、探す」

トヤバとは、富山とヤバイを合わせた造語で、高校生や中学生が手に取ってもらいやすくすることをコンセプトに進学パンフレット「全全全部トヤバ」を作成した。富山のスポットとして、映画の撮影場所や鉄軌道、富山の生活をロック調にした動画、各高等教育機関の学食の紹介などをALL富山COC+ YouTubeチャンネルに掲載。手軽に見られるようにQRコードを配し、インデックスとして利用することができる。富山の魅力を写真で投稿する参加型のインスタグラムとも連動させ、富山のいろいろなところに出向いて、自ら情報を発信できるようになっている。高校生や大学生が、自ら富山の魅力を発信することで、地域を身近に感じ、地元進学の一助になればと考えている。

このパンフレットは、県内の全中学・高校に配布している。



2 ALL富山COC+ YouTubeチャンネル(進学パンフレット関連動画)

平成29年度に作成した進学パンフレット「全全全部トヤバーまだ、見たことのない富山を、探す」の関連動画として、富山県内の各高等教育機関の学生食堂の紹介、映画ロケ地を巡って紹介する富山の魅力、富山の暮らし・食文化・住みやすさなどをロック調の歌で紹介している。ALL富山COC+ YouTubeチャンネルに掲載している。



3 平成29年度富山県内大学・短大・高専合同進学説明会

高岡会場(高岡文化ホール):平成29年10月28日(土)
富山会場(富山国際会議場):平成29年10月29日(日)

県内高等教育機関が直接企画する合同進学説明会を開催!

平成29年10月28日(土)・29日(日)、県内2会場において、富山県内7高等教育機関(大学・短大・高等専門学校)による合同進学説明会を開催した。この説明会は、未来の地域リーダーとなる人材を育成するため、県内高等教育機関が一堂に介して開催する唯一の進学説明会で、ブース形式による個別相談、大学紹介、資料(願書や学校案内)配布を行った。特に今年度は、他の説明会とはひと味違う内容として、「キャリアデザイン講座」を実施。進学を希望する生徒やその保護者、学校関係者はもちろん、これから進路を考えていく1年生や2年生にとっても、より明確な進路選択につながる説明会として位置づけた。個別相談のブース担当者によると、特に質問が多かったのは、高校の授業との違い、カリキュラムの作り方、就職先等。留学制度や富山大学が新設する都市デザイン学部への関心度も高かったということであった。

キャリアデザイン講座では、富山大学アドミッションセンター・船橋伸一副センター長が「県内教育機関で学ぶことの魅力と意義」について講演を行った後、定村誠COC+連携推進コーディネーターが、未来の地域リーダーを育てる特徴的な教育プログラムを紹介した。

28日は、富山大学卒業生で北陸銀行本店営業部得意先課の和泉寛子さんが「富山県に生まれ育ち学んだこと」と題し講演。「進学や就職を目標にするのではなく、自ら考えて自ら行動し、常に人間として成長できるようなことに挑戦してほしい」とエールを送った。29日は、富山大学経済学部総務課の林優菜さんが「自分が輝ける場所ー地元でのキャリアを目指してー」と題し講演。「富山に就職するのであれば、県内に進学することの意義は大きいと思うので、将来を見据えて、様々なことにチャレンジしてほしい」とエールを送った。

参加者の声

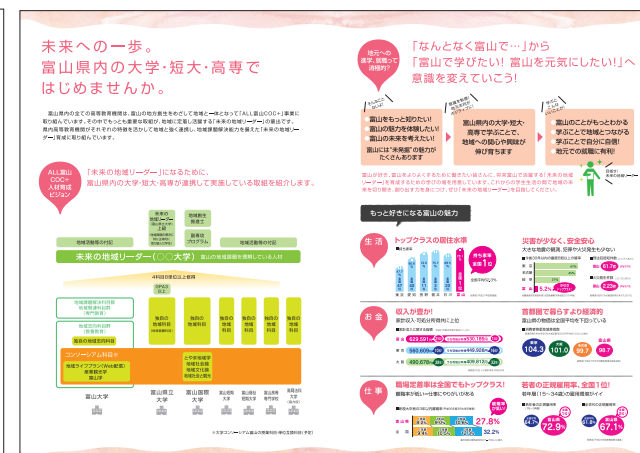
- 理学部か工学部を志望していますが、個別相談でカリキュラムのことや授業の雰囲気などを聞いて「ぜひ入学したい」と感じました。
(石川県・女子)
- 都市デザイン学部に興味があって参加しました。新しい学部の情報が聞けて良かったです。
(富山県・男子)
- 娘が看護の道に進みたいということで、一緒に話を聞きにきました。やはり地元の大学に進んでほしいというのが親の本音ですね。
(富山県・保護者)



4 「とやまで学ぼう」リーフレット

県内の高校生の進路選択の際に役立ててもらうために、高等教育機関で行っている地域を学ぶ授業や県内進学・県内定着の魅力を紹介するリーフレット「とやまで学ぼう。」を平成28年度に作成した。このリーフレットは、平成28・29年度に、富山県立高等学校校長会で周知し、県内全高等学校に送付して3年生に配付した。

平成30年度はリーフレットの内容を刷新し、県内高等学校3年生に配付する予定である。



5 キャリアデザイン講座(高校生対象)

南砺福野高等学校(平成28年 9月17日・平成29年9月16日 南砺福野高校にて)
高岡南高等学校 (平成28年10月20日・平成29年5月25日 富山大学にて)

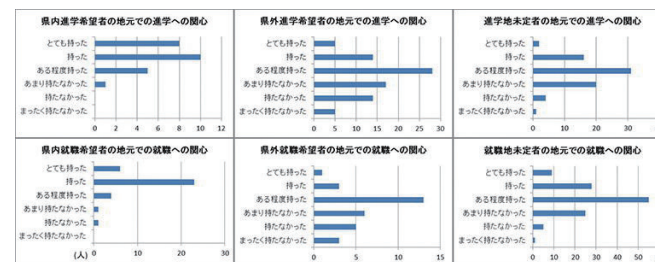
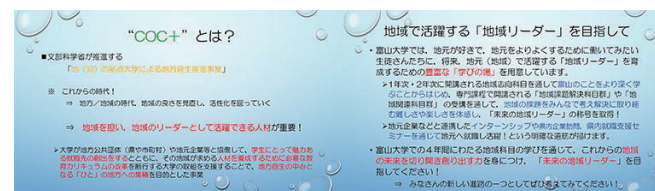
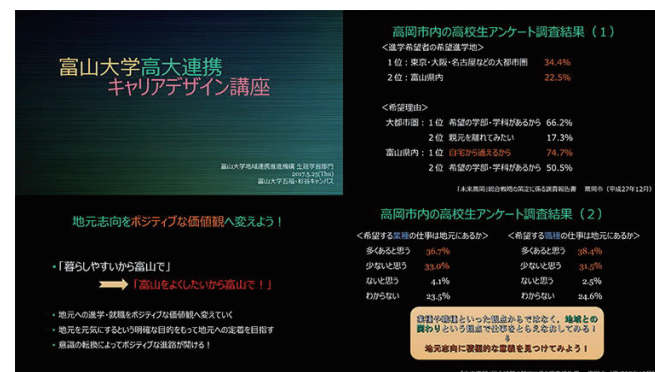
平成29年5月25日、富山大学において、高岡南高校の生徒を対象に地域(地方)で学び働く積極的な意義を考えてもらうことを目的としてキャリアデザイン講座を開講した。森口生涯学習部門長は、地方は人口減少・高齢化の加速といった大きな課題を抱えており、地域の活性化が求められていることを説明し、地域が活性化するためには、地域に対する意識が高い若者が持っている“地域を変える力”が必要であり、ぜひその力を育て、将来地域で活躍できるよう、明確な目的意識を持った進路選択をしてほしいと呼びかけた。

定村COC+連携推進コーディネーターは、富山大学が中心となって県内高等教育機関と連携して取り組んでいる「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」を紹介した。具体的な富山大学での取組として、「未来の地域リーダー」育成を挙げ、“富山を知り、富山に興味を持ち、愛着を抱いてもらう”ことを目指した地域志向科目の開設を説明し、地元企業等と連携した「地域定着プログラム」として、県内就職支援セミナーの開催、県内企業訪問の実施、海外展開する県内企業の訪問、中・長期インターンシップの実施、女子学生の地元定着支援等、地元就職支援を行っていることを紹介した。

また、県外の大学から富山大学に就職した職員が、富山で働くことについての体験談などを披露した。

本講座の前後にアンケートを実施し、高校生の現在の進学・就職に対する考えを調査した。

高校2年生が対象であったため、進学・就職先について未定と回答した人が多くいたが、受講後には未定と回答した人の約7割が地元での進学・就職に関心を持った。受講前に県内進学・就職を希望していた人については約9割が、県外進学・就職を希望していた人についても半数以上が地元での進学・就職に関心を持った。本講座をきっかけに自分のキャリアについて考えてもらい、「暮らしやすいから」といった消極的な理由ではなく、「富山をよくしたいから」といった積極的な意識を持って地方創生の一翼を担ってくれる人を増やしていく。



富山大学

1 ALL富山COC+ホームページ

平成27年度にALL富山COC+ホームページを開設し、本事業の目的、COC+とは、教育プログラム改革、COC+の推進体制、地域の情報、本事業のレポートとして、イベント・地域定着・教育・その他のカテゴリーに分けた取組の掲載を行っている。

また、本事業に関する動画についても掲載している。



2 地域志向科目の動画

富山大学では、平成28年度から新たな地域志向科目として、「地域ライフプラン」、「産業観光学」、「富山学」を開講した。その内容等について動画で紹介している。高校生や保護者などにも分かりやすく作っており、合同進学説明会などで活用している。

「地域ライフプラン」については、平成27年度から県内の高等教育機関へのリアルタイム配信を行っている。



3 地域定着プログラムの動画

富山大学で地域定着プログラムとして実施している取組を中学生・高校生・保護者及び企業等に紹介し、ALL富山COC+事業をPRするとともに、本事業への協力・支援を求め、学生の地域定着に寄与する目的で、動画を作成した。



4 自ら富山の魅力を発信するInstagram

富山大学地域連携推進機構では、富山県内の魅力を自ら伝えるツールとして、Instagramから地域の写真を投稿できる公式アカウントを開設した。若者の利用が多いソーシャルメディアを活用することにより、より効果的な情報発信ができるとともに、学生・生徒の主体的なALL富山COC+事業の参加の促進が期待される。



5 ALL富山COC+ニュース

本事業の取組や地域科目等を広く紹介するため、ALL富山COC+ニュースを発行した。平成29年度は、3号まで発行して広く本事業をPRした。



6 学生食堂での広報活動

- 期間 平成29年11月22日(水)～平成30年1月下旬
- 場所 富山大学(五福キャンパス)大学食堂
- 作成 全6種類×各350枚=2,100枚

食堂のトレイを活用して県内企業をPR!

富山県と協力し、富山大学五福キャンパスにおいて、食堂で使われるトレイに県内企業の魅力を伝えるPR広告を掲載する取組を開始した。県内に就職する学生を増やすには、県外出身者への働きかけが課題となっており、多くの学生が利用する大学の食堂のトレイをPRの場として着目した。掲載企業のジャンルは、製薬会社や工作機械メーカーから、銀行、スーパーまで多種多様で、各社は「世界最大級の銅合金メーカー」「社員の6人に1人は富大出身」等、それぞれの魅力をアピールしている。

その他、各テーブルには、未来の地域リーダー塾の活動内容や入塾者募集について掲載したスライドディスプレイも配置している。



7 テレビ等による放映(北陸銀行CM,NICE-TV)

富山大学経済学部地域課題解決科目「地域再生論演習」において、地元ケーブルテレビ(NICE-TV)が密着取材を行い、ニュースで10分間の特集が組まれた。また、この授業風景は北陸銀行のテレビCMとしても活用され、授業の様子が県内に放送された。



富山県立大学

1 求人企業用大学紹介パンフレット

キャリアや就職に関連する情報に特化した、求人企業向け大学紹介パンフレットを作成し、ALL富山COC+事業及び当該事業で県内6高等教育機関が協働して取り組む、「未来の地域リーダー」について紹介した。

パンフレットの内容は、

1. 教育関連:教育の特色(クサビカリキュラム)、キャリア教育、ALL富山COC+事業、「未来の地域リーダー」制度について紹介
2. 卒業生の就職状況:キャリアセンター事業内容、就職状況データ、卒業・修了者の内訳
3. 裏表紙:就職指導担当紹介

となっている。

採用実績企業、研究協力会会員企業、その他(採用担当者来訪時など)に配布することとしている。



富山国際大学

1 富山県高等学校商業研究クラブ主催の研究発表会

富山国際大学は平成29年12月14日(木)に富山県市町村会館で開催された富山県高等学校商業研究クラブ研究発表会に、現代社会学部長尾ゼミと子ども育成学部村上ゼミが特別参加し、大学生の地域貢献活動の取組事例を発表した。長尾ゼミは「学生まちづくりコンペティション in 2017」において採択された「富山ラーメンアイス」事業の成果報告を、村上ゼミは2ヶ所から研究助成の採択を受けている「富山県内のこども食堂の現状と課題〜『こども食堂』における新たな機能に向けて〜」の事業について成果報告を行った。

これは富山県高等学校商業研究クラブと富山国際大学にとって初めての試みであったが、商業科設置高校の生徒・教員約200人の参加があり盛況であった。お互いに学びの交流のきっかけを持つことができたので、今後はこれを礎にして高校生と大学生の地域研究活動の交流の場を充実・強化していきたい。



シンポジウム

1 平成27年度 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)キックオフシンポジウム

堂故茂文部科学省大臣政務官のほか、県内高等教育機関、地方公共団体、経済界等の関係者約320人の参加により、知の拠点として、地方創生を目指す取組が本格的に始動した。

シンポジウムでは、ALL富山COC+事業概要説明、地域課題解決に向けた富山大学及びALL富山COC+参加校の取組事例紹介のほか、「富山全域の連携が生み出す地方創生」をテーマとしたパネルディスカッションを行った。さらに、シンポジウムの中で、富山大学を含む7つの県内高等教育機関と、事業協働機関である富山市、魚津市、氷見市、富山県商工会議所連合会、富山機電工業会との間で、それぞれALL富山COC+事業推進のための協定を締結した。なお、同様の協定は、富山県とは本シンポジウムに先立ち締結済みであり、石井知事からの、「本事業の取組が富山県の活性化に大きく資するものであり大いに期待する」とのメッセージが紹介された。



平成27年12月4日(金)



2 平成28年度 ALL富山COC+シンポジウム『「信頼の循環」で生み出す富山創生2017』

県内外の高等教育機関、地方公共団体、経済界等の関係者や学生等、あわせて約130人が参加した。シンポジウムでは、これまでのALL富山COC+の取組、課題解決に向けた今後の展開について報告の後、徳島大学及び茨城大学から、それぞれの地域での取組について報告があった。

パネルディスカッションでは、「COC+を一步先へ」と題して意見交換し、パネリストからは、「課題を最後まで解決できる“シュートを決め切る”力を持った人材や、国際的にも活躍できる“ホンモノ”の人材を地域で育成していくべきだ、などの意見が出された。

また、シンポジウムの開催と併せて、富山大学がALL富山COC+事業の一環として平成28年度より実施している「富山大学学生によるCOC+地域連携研究助成」事業の成果発表会(ポスター発表会)を開催した。



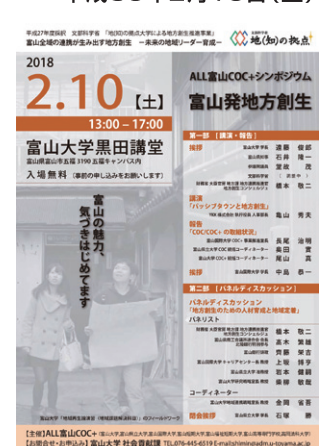
平成29年3月27日(月)



3 平成29年度 ALL富山COC+シンポジウム 富山発地方創生

本シンポジウムは、産業界との連携を強化し、入学から就職までの繋がりのある取組の構築を目指して、産学官金の協力体制を作ることとを目的として開催する。

平成30年2月10日(土)



富山大学

1 富山学 立山現地見学 弥陀ヶ原～立山カルデラ～立山カルデラ砂防博物館 平成28年10月15日

この授業は、富山の自然的、文化社会的基盤について理解を深め、地域の課題解決や活性化に向けて、履修者自らが考え、行動する意識を高めることを目的としている。

その中で、平成28年10月15日に実施した立山現地見学では、立山連峰の自然環境についての理解を深めるため、立山カルデラを題材に富山の自然災害と防災への取組を学んだ。学生たちはバスで立山弥陀ヶ原まで移動し、柴原自然保護官から中部山岳国立公園立山・弥陀ヶ原地域の概要について説明を受けた。

柴原自然保護官は、国立公園や自然公園法の目的、環境省の自然保護官の役割等についても解説。中部山岳国立公園の歴史や自然状況、立山開山から電源開発、立山黒部アルペンルート開通までの状況を紹介。さらに立山弥陀ヶ原・大日平は日本で最も高所にあるラムサール条約湿地として登録され、湿地の「保全・再生」「賢明な利用」「交流学習」の促進を考えていかなければならないと強調した。

また、立山黒部アルペンルートの建設開通に伴い、1950年代から1970年代にかけ車輦や人が湿地を荒らしていたと解説。その後の車輦規制や湿地内の遊歩道設置と緑化再生について説明を受けた。学生たちは弥陀ヶ原の緑化再生と復元された様子を視察。弥陀ヶ原の将来像を『保全・再生』『賢明な利用』から考察した。

富山県立山カルデラ砂防博物館では、立山カルデラの自然と歴史、県土の保全のため行われてきた砂防事業について学び、「安政の大災害」や立山カルデラ砂防工事を通して自然災害と防災への理解を深めた。



2 産業観光学 呉西方面現地見学 平成28年11月19日

この授業は、産業観光や富山の産業構造を理解し、富山の産業界が既存産業の再生や新産業創生により発展してきた地域イノベーションについて知り、さらに県内企業が求める資質を涵養することを目的としている。

富山県内企業を実際に訪問する「産業観光」では、平成28年11月19日に富山県西部(呉西地区)の以下の企業等を訪れ、産業観光を体験した。

●株式会社能作(高岡市戸出栄町)

高岡銅器の伝統的な生型鑄造法の工程等を見学。現場の課題やものづくりの可能性についてヒアリングした後、錫製品や産業観光への取組について説明を受けた。

●高岡山町筋散策(小馬出町～木舟町～守山町)

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている山町筋。旧家を活用した店舗、資料館や見学施設として活用されている建物、観光施設等を見学した。

●はんぶんこ(高岡市小馬出町)

伝統産業である錫のぐい呑づくり体験やギャラリー等、伝統的建造物を活かした体験型観光と伝統産業伝承をビジネスとして取り組む姿勢から地域観光について学んだ。

●山源醸造株式会社(高岡市横田町)

創業安永元年(1772年)の老舗醸造工場を視察。映像で同社の歴史や背景、麴や味噌醤油づくりについての説明を受け、工場内を見学した。

●高岡市鑄物資料館(金屋町)

観光ガイドボランティアの案内で、国の有形民俗文化財に指定された鑄物関係の古文書や高岡鑄物師を知る資料、高岡鑄物の名品等を見学した。

●金屋町付近散策

同地区は鑄物師町として国の重要伝統的建造物群保存地区に全国唯一選定されている。旧工場のキューボラや町並みの特徴、旧家の構造等の説明を受けながら歩いた。

●株式会社プレスステージインターナショナル(射水市黒河)

平成27年4月に富山に開設した富山BPOタウンを訪問。業務スペースや会議室、カフェテラスや託児所、社員寮等、充実した福利厚生施設も視察した。

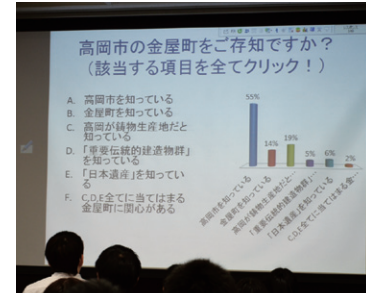


3 地域ライフプラン

平成29年5月24日

この授業は、富山県及び県内市町村・企業等から講師を招き、各地方公共団体等における地方創生や若者の地域定着の取組、県内企業で働く人の生活などについて紹介し、富山への意識・愛情・愛着や地域コミュニティマインドを醸成し、将来住む地域におけるライフプランを考えることを目的としている。

平成29年5月24日のゲストスピーカーは、NPO法人 金屋町元気プロジェクトの加藤昌宏理事長。「町屋で暮らす」をテーマに、活動の舞台である「高岡市金屋町」の紹介やまちづくりの歴史、NPO法人「金屋町元気プロジェクト」が取り組む空き家対策、定住促進活動について話を聞いた。



定住促進活動

金屋の町屋は若い人の流出が顕著で、30年前には420世帯、2,200～2,300人いたが、現在189世帯、人口519人と激減し、空き家だらけになっている。

人口減少の危機感から、様々な事業を行ってきたが、問題解決には至らず、平成25年に「金屋町元気プロジェクト」を設立。「地域住民が住みやすい街、来街者が訪れたく、住みたくなるような街」を目指し、特に子育て世代や若手クリエイターを対象に定住促進を目指した。

平成26年に定住促進計画を策定。空き家を工房や住居等に利用したい人と所有者をマッチングさせるシステムづくり、空き家調査や大家さんへの説明会も行った。町の情報を全国発信するため、平成27年には定住促進サイトを開設。「とやま暮らしセミナーin東京」にも参加した。

現在、町屋体験宿泊施設を検討。2、3年のうちの開業を目指している。また、若手クリエイターの移住を推進するため、今後も工房や住居の提供・就業支援を図っていく。

加藤理事長からのメッセージ

率直な意見や提案が聞けて大変勉強になった。学生たちには、単にイベントや行事に参加するだけでなく、地域の中でどんどん人と交わってほしい。交流を深め、一緒に取り組むことで、イベント開催に至る過程の楽しさを味わってもらうことを期待する。

4 経済学部「地域再生論演習」 第2回魚津市実地調査 平成28年12月21日

この授業は、魚津市の全面的な協力の下に実施しており、魚津市長から「うおづ地域研究員」に委嘱された受講者が魚津市を実地調査し、地域課題を見出してその解決策を模索し、取組の成果を市に提案する中で、課題発見力、課題解決力、コミュニケーション力などを育み、地域への愛着を高めることを目的としている。

平成28年12月21日には、前回の実地調査を経て作った複数の解決策をより具体化するため、2回目の実地調査を行った。学生たちは班ごとのテーマに沿った企業・団体等を訪問。担当者から具体的な現状や課題等をヒアリングした。

A班 魚津市役所内で魚津市飲食業組合水田万輝子組合長から市内飲食店の現状と課題等をヒアリング。魚津市観光協会へ移動し、同協会の澤田和宏氏から観光客の現状や課題をヒアリングした。

B班 魚津市役所内で商工観光課商工労働係職員から魚津の就業・スキルアップ助成事業、企業誘致等について詳しくヒアリングした。

C班 魚津市役所内で都市計画課の空き家関係担当の職員から、魚津市の空き家の現況や対策、課題等について詳しくヒアリングした後、市内の空き家を視察した。

D班 魚津市役所内で企画政策課職員と「魚津三太郎塾」修了生の寺口智之氏、窪田祐司氏、島澤達也氏、美浪呂哉氏からヒアリング。三太郎塾の取組や企業人としての考え方等を聞いた。近くの食品スーパー前では買い物中の市民や学生から魚津市での生活や課題について、インタビューした。

E班 村木公民館で地域の民生委員から魚津市の福祉関係の現場の声として現況や課題をヒアリングした後、魚津市東部サービスセンターにて通所介護施設の現状を視察した。



5 経済学部「地域再生論」

平成29年7月14日

この授業は、地域政策の歴史や地域づくりの具体事例より地域が抱えている課題を学び、今後の地域づくりのあり方や、地域づくりの方法論とその可能性を考えることを目的としている。

平成29年7月14日に行われた第14回の授業では、魚津市からゲストスピーカーを招き、「魚津三太郎塾」を題材に、学生たちに以下のような具体的な事例を紹介した。

■三太郎塾について……………前田久則氏

同塾は社会人を対象としたビジネス塾で、地域資源を活用し、地域の課題を企業の課題としてとらえ、企業の発展を図るケーススタディを実施することによって将来の産業界を含む地域リーダーの育成を目指している。

現在は第6期がスタート。修了生は48人おり、30代が中心で、税理士、干物屋、料理屋等業種はさまざま。平成27年には富山大学生と連携して、ワークショップを開催。北日本新聞で「ウマイ!うおづ」キャンペーンを実施したほか、平成28年にはカタログギフト「おつかいもん魚津」を作成した。いずれも魚津特産品のブランディングと次世代への継承がキーワードになっている。



■コワーキングスペース「マチコ(machi-co)」について……………島澤達也氏(魚津三太郎塾三期修了生)

私は有限会社COM-POSTの代表、魚津三太郎倶楽部代表を務めながら、コワーキングスペース「マチコ」を運営している。魚津三太郎倶楽部は、同塾の修了生で構成され、魚津水循環のPRや商品開発を通じて地域の活性化を目指す活動を行っている。

地域活性化のためには事業者を作らないといけない。スタートアップスペースが必要になるため、デスク、コピー、FAX、ネット環境が揃った環境＝コワーキングスペース「マチコ」を提供している。「マチコ」は、すでに起業している人との交流の場ともなり、事業者同士が新たなビジネスを考える拠点ともなる。

6 人文学部「人文地理学実習3」

平成29年7月29日

地域はどのような問題を抱えているのだろうか。人文学部人文地理学分野の3年生は鈴木晃志郎准教授の指導の下、舟橋村を中心とする上市地域一帯を調査地域としたフィールドワークを行っている。発表会では、今春から準備を進めてきた学生8人が、それぞれの設定したテーマや調査方法について紹介した。

「日本一小さな村」で知られる舟橋村は、富山市のベッドタウン化が進んでいる影響で人口・世帯数ともに大幅に増加。特に年少(15歳未満)人口の割合は全国トップクラスにある。こうした地域性格を踏まえて、子どもの生活を「食育」や「安全」「子育て」という視点で考察したり、「高齢者の暮らし」「村内外の移手段」「住民の防災意識」に着目したり、様々な観点で調査活動に取り組んだ。

発表後の質疑応答では、テーマに対する素朴な疑問や調査方法に対する厳しい指摘等もあり、真剣味のある意見交換が行われた。「着眼点や課題に対する切り口は、まだ整理されていないところが多々あった。また目的と予想される結果にちぐはぐな部分もみられるが、今回の発表会は、次の問題点の発見につながる良い機会になった」と鈴木准教授は大きな期待を寄せた。「子育て」をテーマに選んだ野口晴菜さんは「舟橋村は村外からの転入や、子育てに力を入れているので、共働き家庭の女性がどのように働いているかに興味を持ちました。個人情報保護の観点から調査の難しい部分もありますが、役場や保育所・小学校なども協力していただければありがたいです」と話した。学生たちは今回の発表で得たアドバイス等を踏まえてブラッシュアップを重ね、夏休みには現地で合宿をしながら、さらに調査活動を実施。11月に調査結果を発表し、成果を平成29年度末までにレポートとしてまとめることになっている。



7 人文学部「文化人類学実習3」

平成29年8月23日

人文学部社会文化コース文化人類学分野に所属する3年生10人は、藤本武教授、野澤豊一准教授の指導の下、2年次から立山町について文献やインターネットの情報等をもとに事前調査を行い、それぞれが関心を抱いたテーマを設定。グループワークでは聞き取り調査の人選や文献の集め方等を検討しながら準備を進め、平成29年8月23日から3日間、立山町に滞在し、地域住民に聞き取り調査を行う等のフィールドワークを行った。

調査に先立ち、同町役場の町長室を訪問。舟橋貴之町長から、町の観光資源や商店街の現状、地域が抱える問題等について話をうかがった。

学生が選んだテーマは、「五百石商店街の歩み」や、白装束の女性たちが白い布を敷いた橋を渡って極楽往生を願う「布橋灌頂会(ぬのばしかんじょうえ)」、「立山ブランド」に認定された商品の特徵、越中瀬戸焼の歴史、地元で継承されている獅子舞や民謡、浄瑠璃等となっている。

人文学部社会文化コース文化人類学分野ではこれまでも富山県内を中心に北陸各地の市町村でフィールドワークを行っており、今回は立山町を対象としたことから、同町が地域活性化策を学生に呼び掛けてアイデアを募り、実証実験する「立山町インターカレッジコンペティション2017」に参加、応募校の一つとして実践している。同コンペティションには今回、富山大学を含め明治大、近畿大など8校が参加している。富山大学の学生は11月半ばに提案書を同町に提出、12月上旬に行政担当者らの前で発表するほか、来年3月には「地域社会の文化人類学的調査」シリーズ第27巻となる実習報告書を刊行し、配布する予定になっている。



8 芸術文化学部 特別講義「LIVING ART in OHYAMA」

平成29年8月26日

芸術文化学部芸術文化学科の学生11人が、富山市大山地域で開催されたデザイン・アートイベント「LIVING ART in OHYAMA 2017」に参加し、ワークショップやイベントの運営を通じてアートへの理解やコミュニケーション能力の向上等を図った。

「LIVING ART in OHYAMA」は旧大山村の事業であった「木と出会うまちづくり事業」の一環としてスタート。ワークショップや、作品展示、マーケット、富山の食材を使ったカフェ等の催しを通じて、自然や木との触れ合いを呼び掛けている。富山大学のほか、東京理科大や武蔵野美術大の学生らも参加した。

芸術文化学部の学生たちは内藤裕孝講師の指導の下、木の端材を使った万華鏡作りや、木をこすり合うことで鳥のさえずりのような音が出るオリジナルのバードコール作りが体験できるブースを設け、内藤講師も「内藤木硝子店」と題し、ガラスと金属線、木片を使ってオブジェを作るブースを出店した。

イベントでは小学生のスケッチをもとに作品化する「木の冒険道具コンペティション」の応募作品が展示され、富山大学の学生では得能真倫さん、久保江美果さん、進藤正慎さんの作品が並んだ。得能さんは「テーマ『100の冒険』の中の『泣いている赤ちゃんを笑わせる冒険』というテーマを尊重し、口元が開いていて面を付けるきょうだいの口が見えるようにした。目の部分はマグネット式になっており、眉や目をつけたり外したりしやすくなっている」と自作を紹介した。

内藤講師は「催しは学生が外部の人とコミュニケーションする貴重な機会になっている。子どもとの触れ合いはもちろん、参加しているプロのデザイナーや他大学の学生達との交流を通して、作品を見たり、話をしたりすることで勉強になる」と期待を寄せた。



9 工学部 機械知能システム工学科「創造ものづくり」

平成29年9月26日

工学部機械知能システム工学科の3年生約100人が、YKK黒部事業所「YKKセンターパーク」を見学した。学生はYKKの歩みや、ファスナーや窓の製造工程に理解を深め、同学科OBのYKK社員と質疑応答を行った。

はじめに人事部の藁科佑輝さんがパワーポイントを使ってYKKグループがファスナーに関する「ファスニング」、窓を扱う「AP」、機械・設備・ラインの開発を担う「工機」と3つの事業部門に分かれていること、自前の材料や製造機械も手掛ける「一貫生産思想」をこだわりとしていること等を紹介した。

続いて藁科さんから若手社員4人の案内で、YKKセンターパーク内を見学。製造工程を紹介する資料、商品サンプルのほかYKKの製品が使われている宇宙服や、テロの脅威を防ぐために爆風の被害を軽減できる窓等も展示されていた。

引率した加瀬篤志助教は「ホームページ等を見てYKKについて調べてから参加している学生が多く、関心の高さがうかがえた。なじみの深い商品を扱う地元企業であり、就活という観点からも注目度は高い」と話した。

OBとの懇談では入社して3年目の機械製造部・大野光輝さんと中国出身で入社6年目の生産技術・応磊さんから話を聞くことができた。学生からは「語学はできた方がいいか?」「インターンシップは経験したか?」「1日の仕事の流れは?」「部署は希望に沿って配属されるか?」「デスク業務と現場の仕事のどちらが多いか?」等さまざまな質問が上がり、OBの2人は一つひとつ丁寧に答えていた。



10 理学部「海域地球科学実習」

平成29年10月15日

富山高専の練習船「若潮丸」を使った海域地球科学実習が実施された。富山大学理学部の松浦知徳教授、安永数明教授、楠本成寿准教授が引率し、理学部の学生28人が、富山高専臨海実習場(射水市)から富山湾沖約30キロまでを航行する間に2つの停船ポイントで、観測や海水採取等を行った。

まず、「若潮丸」の中松英也 船長があいさつを述べ、金山恵美 一等航海士が乗船にあたっての安全説明を行い、千葉元 同高専教授による実習船内での行動規範や富山湾の構造、航行に関係した専門用語等の解説があった。船内の見学を経て出航し、実習へ向かった。

学生たちは事前学習を経て乗船実習に臨み、測位、気象観測、海面温度の計測、バケツ採水の計測、電気伝導度水温水深計(CTD)観測、各層採水の計測、圧縮変形実験と7つの作業を行った。

松浦教授は、富山湾の水塊構造が研究テーマであり、学生は同教授の指導の下、水深1,000メートルと700メートルの水温・塩分濃度を測定した。

安永数明教授は、船上から雲の量や形を記録する実習や放射温度計を使って海の表面温度を測る等の実習を指導した。

楠本成寿准教授は、地下構造の把握が専門であり、学生はスマートフォンのGPS機能を使って位置情報を確認し、船に搭載されている精密な機器によって得られるデータと比較した。

実習を終えた学生は、「船上で普段できない体験ができた」「海に野菜を沈めることで漬物のような“深海漬け”がおいしく、海を五感で味わうことができた」等と話した。



富山国際大学

1 地域づくり実習

現代社会学部の中心的課題ともいえる「地域づくり」の導入段階として、本学部生の学びの基本となる「地域連携の基礎知識と基礎技能」を身につけることを目的とした実習である。実習の前半でグループを作り、ディスカッションや意見集約、プランニング等の基礎技能を学び、グループ作業の進め方をマシュマロチャレンジ(写真1)などのゲームを通して身に付ける。後半では地域課題の発見と解決策について、地域の事業所に出向き、地域の皆さんを交えたコミュニケーションの中から探り出す。そして地域事業所の皆さんのアドバイスを盛り込んだ解決プランを立案し、これに基づいて夏季休業期間中に3日間程度の現地活動を行う(写真2)。これらの経験を基礎にして社会との交わりかたや自分の役割に気づき、専門課程における実践活動や地域研究がスムーズに行えるよう準備して行く授業である。



写真1. ゲームでグループ共同作業を学ぶ



写真2. 夏季休業中の現地活動

富山短期大学

1 現代社会と人間

総合短期大学である本学の特徴を活かし、現代社会における地域課題と密接につながる「食と健康」、「保育と育児」、「情報と経営」、「福祉と介護」の各分野、その他現代社会と地域を理解するのに役立つ事柄を学習することによって、人間の生活を総合的に学び、幅広い視野と豊かな人間性を養うことを目的とする。

内容は、各学科教員・外部講師が担当し、目的について共通理解を図りつつ、オムニバス形式で開講する。(4月～6月第2週までの期間で、8回開講する)

・平成29年4月19日

平成29年度外部講師:(株)レストラン小西 代表 小西 謙造氏

タイトル:1969年北陸初のフランス料理店を開業して

内容:富山におけるフランス料理の発展史を中心に自然の幸に恵まれた富山の素晴らしさ、料理を作ることの喜び・料理人の幸せ・美しく楽しく西洋料理を食する秘訣(西洋と日本の食文化の違いを分かりやすく説明)



・平成29年5月10日

平成29年度外部講師:南砺市長 田中 幹夫氏

タイトル:南砺のまちづくりから日本を考える

内容:少子化、高齢化、人口減少という大きな課題に立ち向かうべく地域づくりから未来を考える

富山福祉短期大学

1 富山コミュニティ論

本学が連携している自治体や法人が抱えている地域課題を提示していただき、その内容によって学科専攻に分け、学生がグループをつくり、その課題に取り組む授業で、すべての学生が必修科目として履修している。学生たちが取り組んだ成果を自治体や法人に出向き、授業の成果としてプレゼンテーションを行っている。

学生たちは、グループで協力しながら地域課題に取り組むことによって、自分たちの専門分野に関する地域課題の発見と、その深刻さに気づき、自分たちが専門職として社会に出た時に果たすべき役割について自覚を高めている。



富山高等専門学校

1 特別講義「地域産業学」

平成29年10月5日(木)から、特別講義「地域産業学」を開講した。「地域産業学」は、富山県機電工業会(富山県のものづくりを支える工業系の企業により構成される一般社団法人)の協力を得て、地域の産業とその技術を学ぶ全15回の授業であり、ものづくりの第一線で活躍している技術者を講師に迎え、受講生の就職や進学に役立てることを目的としている。

特に、第1回目は、富山機電工業会会長(YKK株式会社取締役副社長)の大谷渡氏をお招きし、「1.特別講義開講の経緯と概要」、「2.富山県のものづくりの特徴と強み」、「3.学生に期待すること」について、講義が行われた。射水キャンパスにもTV配信され、専攻科1年生及び本科生約200人が聴講した。



大谷会長による第1回講義

フューチャーミーティング

1 平成27年度 ディスカバー北陸 富山フォーラム

平成28年2月20日(土)に、北陸3県の魅力向上について意見を交わす「ディスカバー北陸 富山フォーラム」が北陸3県の高等教育機関の関係者や学生、一般市民など約350人の参加により開催された。パネルディスカッションでは、「若い世代と創る北陸のみらい」をテーマに県内の高等教育機関の学生約70人が参加し、北陸や富山での定着について活発な意見交換が行われた。



富山大学・富山県立大学・富山国際大学

2 平成28年度 環境シンポジウム「環境都市・とやま」の未来を考える
市民ワークショップ「2064年の富山市のくらしー持続的でしなやかなまちであるために」

昨今、地球規模の環境問題が深刻化しており、その解決のために持続可能性の概念が重要になってきている。このシンポジウムは、富山市と富山大学、富山県立大学、富山国際大学が連携して、富山市が持つ環境都市としてのポテンシャルの理解を深め、「住みたい街とやま」としての現状と課題を整理し、将来について参加者と一緒に考え、あわせて参加した学生の地元定着の向上を目的に開催した。

市民ワークショップでは、様々な世代の市民による参加型ワークショップにより、持続的でしなやかな富山市のくらしを描いた。環境シンポジウムのパネルディスカッションにおいてその成果を公表し、富山の「あるべき姿」のビジョンについて議論した。

また、「環境都市・とやま」の現状やその将来を支える県内発の先進技術を分かりやすく紹介し、この地域が持つ環境都市としてのポテンシャルの理解を深め、「住みたい街とやま」として現状と課題を整理し、将来の富山について参加者と議論し、理解を深めた。

●スケジュール等

・市民ワークショップ「2064年の富山市のくらしー持続的でしなやかなまちであるために」の開催

日時:第1回:平成28年 8月 6日(土)13:00~17:00 『課題の理解・テーマの設定』

第2回:平成28年 8月 27日(土)13:00~17:00 『ビジョンの生成』

第3回:平成28年10月22日(土)13:00~17:00 『ビジョンへの道筋の作成』

会場:富山大学五福キャンパス 経済学部7階大会議室

参加者は、20代から70代の社会人、退職高齢者、主婦、県内企業関係者、県内大学生の16人。性別や年代が偏らないよう2グループに分かれ、富山市の協力の下、バックカスティングと呼ばれる手法を用いて持続可能な富山市の長期シナリオを作成した。

・グループA「自然と調和した環境先進都市」

・グループB「あこがれ都市富山」

作成したシナリオをシンポジウムで公表し、パネルディスカッションで議論を深めた。

・環境シンポジウム「環境都市・とやま」の未来を考える

日時:平成28年11月18日(金)13:00～16:45		場所:富山大学黒田講堂	
【プログラム】	13:00～13:05	開会あいさつ	富山大学長 遠藤 俊郎
		富山国際大学長あいさつ	富山国際大学長 中島 恭一
○講演	13:05～13:25	「水素社会実現に向けた課題と取り組み」 富山大学研究推進機構水素同位体科学研究センター 阿部 孝之 教授	
	13:25～13:45	「宇奈月温泉におけるエネルギー地産地消の街づくり」 富山国際大学現代社会学部 上坂 博亨 教授	
	13:45～14:05	「IoT技術を利用したサステナブルな社会の構築」 (株)インテック専務執行役員 社会システム戦略事業部長 石井 貞行 氏	
	14:20～14:40	「森里川海の自然資本を活かした持続可能な町づくり」 (株)日経BP社 日経エコロジー&日経BP環境経営フォーラム 生物多様性プロデューサー、富山大学客員教授 藤田 香 氏	
	14:40～15:00	「コンパクトシティの取り組み」 富山市都市整備部長 高森 長仁 氏	
	15:20～15:25	富山県立大学長あいさつ 富山県立大学長 石塚 勝	
○パネルディスカッション テーマ:「持続可能でしなやかな富山を目指して」-未来志向のシナリオ作りの可能性-			
パネリスト	富山県立大学工学部	渡辺 幸一 教授	
	富山大学研究推進機構極東地域研究センター	山本 雅資 准教授	
	富山県立大学工学部	中村 秀規 講師	
	東京大学大学院工学研究科	木下 裕介 講師	
モデレーター	富山大学経済学部	青木 一益 教授	
	16:25～16:30	閉会あいさつ	富山大学地域連携推進機構長 鈴木 基史

シンポジウムには県内高等教育機関、地方公共団体、経済界等の関係者や学生・地域住民、あわせて約200人が参加した。

シンポジウムの前半では、「環境未来都市」にも選出されている富山市のコンパクトシティの取組や、その将来を支える県内発の先進技術を紹介した。

後半では、「持続可能でしなやかな富山を目指して-未来志向のシナリオ作りの可能性-」と題して、パネルディスカッションを行った。パネルディスカッションでは、様々なバックグラウンドを持つ市民の自由な意見を集約するため事前に複数回の市民ワークショップを開催し、将来的なビジョンを策定。その結果を踏まえ、「課題解決に向けた出会いと実践の場」として、「住みたい街とやま」についての活発な意見交換が行われた。

シンポジウムには、県内の高等教育機関、自治体、経済界等の関係者や学生・地域住民の約200人の参加があり、富山市のコンパクトシティの取組や将来を支える県内発の先進技術を紹介するとともに地域の課題解決に向けた出会いと実践の場として、「住みたい街とやま」について活発な意見交換がなされ、将来の富山を考える機会となった。参加した学生は、富山のことを考えるよいきっかけとなった。

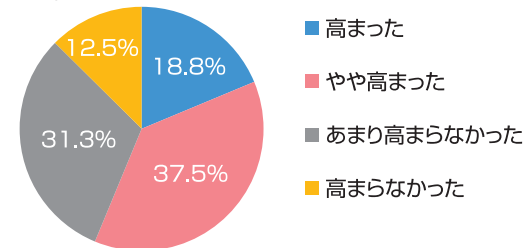
ワークショップでは、富山市の将来について、いろいろな世代や所属の方々と具体的な協議が行われ、将来ビジョン・シナリオづくりを行うことができた。参加者からは、それぞれの立場で今後の地域のためにできることなど再認識した。

ワークショップに参加した学生からは、富山の地域について社会人・高齢者・主婦、様々な年齢層の人たちと議論することで、地域の多様な人々との話し合いの大切さを理解し、富山の未来を考える良い機会となり、富山への定着に繋がったと考えられる。また、シンポジウムに参加した学生のうち半数以上が富山に定住したいという意識が高まったと回答している。

地域定着に繋がる取組として、継続的に地域のことを考え、体験するプログラムがより有効であり、今回の環境シンポジウムや市民ワークショップの成果を取り入れた教育プログラムが必要と考える。



●アンケートによる学生の意識について
(学生のみ)



地域課題解決型プロジェクト

富山大学

1 舟橋村「子育て共助のまちづくり」

舟橋村における「公共空間の整備・利用による子育てコミュニティづくり」に係る連携協力に関する覚書を締結

富山大学地域連携推進機構は、平成29年1月20日、舟橋村と、県内造園3団体(一般社団法人の富山県緑化造園土木協会、日本造園建設業協会県支部、日本造園組合連合会県支部)との間で、公園に代表される「公共空間の整備・利用による子育てコミュニティづくり」についての覚書を締結した。

本学は産学官との連携による事業のコーディネートや情報提供等の支援を行い、新たな地方発のローカルイノベーションの創出に繋げていくことを目標とし、さらにALL富山COC+関連授業(地域ライフプランや地域志向科目)にも活かしていく。

ICT(情報通信技術)を活用した子育て支援による地方創生に向けて連携協力の覚書締結

富山大学地域連携推進機構は平成28年6月30日、舟橋村、西日本電信電話株式会社富山支店及びNTTアドバンステクノロジ株式会社(川崎市)との間で、『舟橋村における「ICT活用による子育てコミュニティづくり」に係る連携協力に関する覚書』を締結した。

この締結により、村内の各種ICT端末等を活用し、育児協力を求める側と支援する側を繋ぐ好循環の創出や、子育て世代支援にかかる新商品・新サービスの創出に向けた社会実証実験研究を実施。地方初のローカルイノベーションを目指す。連携の深化により、ALL富山COC+事業への取組の一環として産学官金連携による地域のイノベーション創出支援に繋がることが期待される。



左から、金森勝雄 舟橋村村長、鈴木基史 地域連携推進機構長、富山県内造園3団体からの各代表者



左からNTTAT木村社長、NTT山本支店長、金森村長、鈴木機構長

2 新川創生プロジェクト

魚津市、荒井学園と地域を支える若者育成に向けて連携協力の覚書締結

富山大学地域連携推進機構は平成29年6月9日、魚津市、新川高校を運営する学校法人荒井学園と、新川創生プロジェクト「地域に残り、地域を支える若者育成」に係る連携協力に関する覚書を締結した。

今年度、新川高校が取り組んでいる地域ビジネス体験Nカフェ(地域資源を生かした商品開発・販売を行う)の拡大を進めると共に、地域定着・地域の担い手としての意欲向上を図る。学校を核とした地域力の強化、地域で活躍できる人材育成を図るとともに、「ALL富山COC+事業」幹事校として県内大学への入学者の増加及び県内大学卒業者の地元就職率向上を目指す。



左から鈴木機構長、荒井理事長、村椿市長

3 「南砺で暮らしませんか!」プロジェクト

「南砺で暮らしませんか!」プロジェクトに係る連携協力に関する覚書を締結

富山大学地域連携推進機構は平成29年7月21日、南砺市と、「南砺で暮らしませんか!」プロジェクトに係る連携協力に関する覚書を締結した。

覚書の締結により、本学では南砺市より民間等共同研究員を受け入れ、調査研究及び地域の生活サービスを支える人材・枠組みづくりを支援するとともに、地域定着への波及やキャリア教育等のALL富山COC+事業へ協働して取り組んでいく。

また、本学都市デザイン学部との新たな連携についても今後検討し、発展的な連携協力によって地方創生に寄与することを目指している。



・平成29年度 南砺市型小規模多機能自治市民会議

南砺市では、平成29年度に市民自らが考え行動していく市民総参加（総働）による「小規模多機能自治」のまちづくりを検討するため、南砺市民参加の市民会議を開催した。この市民会議は、まちづくり基本条例の下、小規模多機能自治について市民レベルで学び検討する場として開催するもので、自治振興会等の既存の組織のみならず若い世代や女性等の一般市民の方々も参加するフューチャーミーティングとし、講座やグループワーク等により、地域組織のあり方や運営の手法を検討。企画・運営には、南砺市職員5名と富山大学3名が参画した。

南砺市型小規模多機能自治市民会議の日程・内容について

開催日	内容	備考
第1回 9月20日(水) 2時間 18:30～20:30	オリエンテーション ・市民会議の目的の明確化 ・提言の概要(ゴール)の共通理解 ・日程や進行についての確認	
第2回 10月15日(日) 4時間 13～17時	川北氏講演会 ・自治振興会等の役割の変化 ・小規模多機能自治の理解促進 ・南砺市における自治振興会等の現状と課題	・若者を巻き込む小規模多機能自治 ・南砺市のこれまでの取組 ・南砺市に必要な新規地域事業
第3回 11月1日(水) 2時間 18:30～20:30	小規模多機能自治へのヒント ・金岡 教授(富山大学) ガルテン、チームひなた、塚田さん、大越さん 地域イノベ、稼ぐ力、国交省資料 ・南 政策参与(南砺市)	
第4回 11月18日(土) 4時間 13～17時	ワークショップ ・地域の魅力アップ、安心・安全な暮らし実現 ・これからの南砺市に求められる地域事業	
第5回 12月3日(日) 4時間 13～17時	関係団体との意見交換 ・関係団体からの活動内容紹介 ・これから必要となる地域事業の展望	
第6回 12月23日(土) 4時間 13～17時	南砺市で展開すべき地域活動とその担い手 ・最終回に向けて、具体的な提言作成 ・発表用資料等の作成	
提言 1月31日(水) 1時間 19～20時	地域で展開する地域事業とその担い手のあるべき姿の提言	・市長に対して提言 ・自治振興会長をはじめ、多くの傍聴者が参加

グループワークでは、参加した38人の市民が、市街地、平野部(3グループ)、山間部の合計5グループに分かれて、それぞれの地区の特徴にあった小規模多機能自治のあり方について検討し、1月に市長に提言した。



4 沿道地域との連携による新たな価値創造プロジェクト

NEXCO中日本と「沿道地域との連携による新たな価値創造プロジェクト」に係る覚書を締結

富山大学地域連携推進機構は平成29年9月6日、NEXCO中日本(中日本高速道路株式会社金沢支社)と「沿道地域との連携による新たな価値創造プロジェクト」に係る連携協力に関する覚書」を締結した。

本学ではNEXCO中日本からの民間等共同研究員を受け入れるとともに、地方創生ノウハウや地域活性化に取り組む先駆事例の情報提供を行っていく。本年度は、魚津三太郎塾の塾生と連携し、高速道路やサービスエリアを活用した地域活性化ビジネス等を検討。将来的には、課題解決型の授業におけるSAの活用や都市デザイン学部(平成30年度開設)との連携等も見据えている。



左から鈴木機構長、久保田金沢支社長

地域再生人材育成事業

富山大学

1 魚津三太郎塾(魚津市)

魚津市との共同主催により、地域金融機関の協力と関係機関メディア等と連携し、魚津の将来を担う企業人・地域リーダー(社会人対象)の育成を目的に平成23年に開塾した。魚津の地域資源である水循環をテーマに環境と経済の両立(CSV)の実現を目指し、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスの第2創業等を支援している。



2 たかおか共創ビジネス研究所(高岡市)

地域企業、金融機関、行政、大学が早い段階から、地域課題を共有し、課題解決に資する地域活性化プロジェクトの立案を行うThink Tank機能とともに、地域企業が立案したプロジェクトを自ら行動するDo Tank機能を協働して育むため、高岡市と共同主催で平成26年度に開講した。ディベートや共同研究等を重ねながら、新しいビジネスモデルの構築と実践を最終目的としており、特色ある地域資源や地域の人材を活用しながら、需要創造型のイノベーションを起こし、高岡発の成長戦略の実現を目指している。

なお、この事業は、平成29年度から呉西6市に拡大し、とやま呉西圏域共創ビジネス研究所として開講している。



3 たなべ未来創造塾(和歌山県田辺市)

富山大学地域連携推進機構と田辺市との人材育成の連携に関する覚書を締結

富山大学地域連携推進機構は、和歌山県田辺市と「人材育成の連携に関する覚書」を平成28年1月29日(金)に締結した。

田辺市では、平成26年4月より、「交流人口の増加」と「地域経済の活性化」を目指した「価値創造プロジェクト」を推進してきた。こうした中で、富山大学地域連携推進機構と人材育成の連携に関する覚書を締結することで、地域課題解決の担い手育成、地域イノベーションの創出に向けた取組を展開することとなった。

富山大学では、富山県内において「魚津三太郎塾」(魚津市)、「高岡共創ビジネス研究所」(高岡市)の地域再生塾や舟橋村で展開している地方創生への産学官金メディアによる実践的なプロジェクト運用等を行っており、そのノウハウを基に、田辺市の「価値創造プロジェクト」の地域政策の実践のため、職員育成と事業推進への共同研究活動を行うこととしている。



地域活動への学生参加

富山大学

1 大学生地域サポーター(立山町)

立山町では、若者が立山町のいろいろな行事等に参画し、提言する「地域サポーター」事業を行っており、平成29年度には富山大学から8人の学生が参加した。立山町も少子高齢化により、若者の意見を取り入れた企画を作り上げることが難しくなっており、町外の学生の声をイベント等に取り入れて改善したいと考え、この事業を実施している。

富山大学生を含む大学生・高校生らの地域サポーターは、7月に開催された立山まつりにおいて立山町の特産であるコシヒカリ100%の米粉を用いたベビーカステラを、8月に開催されたたてやまドンドンまつりでは、会場までの暗い道にペットボトルで作ったキャンドルを並べた安全で雰囲気のあるキャンドルロードを提案した。また、9月に開催された布橋灌頂会関連のイベントでは、富山地方鉄道の富山駅において白装束のコスプレで、布橋灌頂会の宣伝を行うなど、さまざまな企画に参画し、学生たちは体験を通して地域に対する理解を深めた。

2 市民アンケートワークショップ(黒部市)

黒部市の第2次総合振興計画の策定にあたり、市民の意向を把握するため実施する「市民アンケート」がより充実したものになるよう、大学生の意見を取り入れることとなった。学生は黒部市の空き家の状況や、パッシブタウンの取組、温泉街や生地の清水巡りなどを視察した。その後視察を行った学生によるワークショップを開催し、黒部市の課題や将来像について意見を述べた(平成28年6月実施)。集められた意見は、基本構想策定にあたっての基礎資料として活用された。



3 愛本地区まち歩きマップ(黒部市)

黒部市宇奈月町愛本地区の名所・旧跡や歴史を写真つきで紹介するマップ「愛本さんぽ」の作成に際し、地域の魅力の再発見に取り組み富山大学公認サークルのMulti activity players(通称Map)が携わった。

同事業は、黒部市の公募提案型共同事業にも採択されている。

「愛本さんぽ」は、住民に地元の魅力をより知ってもらい、県外から訪れる人に情報を発信するために制作され、外国人観光客に向けて英語表記も取り入れている。平成29年2月に完成し、地区や観光施設に1万5千部を配布した。今後、愛本地区では、このマップを活用し住民参加のまち歩きを行ったり、ボランティアガイドを育成していくことにしている。



4 学園祭での舟橋米の販売(舟橋村)

富山大学公認サークルのMulti activity players(通称Map)から学園祭において白飯を販売したいとの相談が地域連携戦略室にあった。

地域連携戦略室は「子育て共助のまちづくり」等で舟橋村と連携しており、舟橋村が地域活性化のため舟橋村地域で育成している「ばんどり米」の販売促進を行っていたこともあって、サークルメンバーを舟橋村の職員に紹介したところ、ばんどり米を学園祭で販売することになった。

Mapは販売に先立って、舟橋村に向き稲刈り(平成28年9月11日)などの農作業も体験した。平成28年10月8・9日、富山大学五福キャンパスの学園祭(富大祭)において、Mapは白飯を販売し、同時に舟橋村のPRも行った。

その後、Mapは一般学生に向けて農業協同組合での農業体験を募集し、平成29年5月13日に田植え体験を実施した。



富山県内各高等教育機関

1 学生の政策提言事業(射水市)

射水市では、学生の意見を生かした市政を推進するため、学生からの政策提案を募集し、審査会で公表した。

受賞結果

●平成27年度

最優秀賞

・富山高等専門学校 生き生きいみず「いみずのお土産『メッセージカード』」

優秀賞

・富山高等専門学校 NHT「ぐるり!射水市」

・富山県立大学 中島ゼミAグループ「子育てしやすい町をつくるための子育てサポート制度」

・富山県立大学 中島ゼミBグループ「学びと研究の街いみず人と情報の拠点整備」

・富山情報ビジネス専門学校 bit学生会「訪れてみたいまち いみず」

・富山福祉短期大学 ボランティア・コーディネート・サークル「学びあい・集い合い・楽しみ合いのいみずっちゃ交流会」

●平成28年度

最優秀賞

・富山大学スポーツマネジメント研究会「“生涯スポーツツーリズム”の発信地へ」

優秀賞

・富山県立大学 福島侑樹さん「ムズムズしちゃう学生に企業紹介」

・富山情報ビジネス専門学校 ムズムズちゃん「誰もが親しめるまち」

ムズムズ賞

・富山県立大学 熊田洋希さん「学生と高齢者の参加による学童クラブの規模拡張と充実」

・富山県立大学 グループ女子「射水を知ろう!~自治会準会員になろう~」

・富山県立大学 Cocos空き家改築部隊「新湊内川地区 学生シェアハウス」

きときと賞

・富山国際大学 高橋哲郎ゼミ「徹底密着取材 ミリオンカップル射水に凱旋」

・富山福祉短期大学 藤井グループ「野遊び大好き会」「森へ出かけよう!自然の中の子育て支援センター『森の家』」

イヤサー賞

・富山県立大学 TPU原口ゼミ「知られどくたわしたちの射水のまち~しられVR・見られ映画・まわれスタンプラリー~」

・富山福祉短期大学 村井グループ「認知症高齢者にやさしい地域づくり」

●平成29年度

最優秀賞

・富山高等専門学校 山峯実樹さん「射水市におけるICT及びIoTを活用した新たなまちづくり」

優秀賞

・富山福祉短期大学 高橋雪那さん、豆本 栄さん、敷重花李さん、荒戸紗貴さん、折谷侑紀さん、金子智里さん「若者の防災意識向上のためにできること~SNSの可能性~」

特別賞

・富山県立大学 牧野圭将さん「助っ人で守る 射水の祭り」

・富山県立大学 石井孝宗さん、各務聡一郎さん、布施謙佑さん「観光地にスマホをかざして災害疑似体験」

富山国際大学

1 道の駅「ウェーブパークなめりかわ」と道の駅「砺波」の活性化策について

富山国際大学現代社会学部長尾ゼミ(3年次)は同ゼミ4年次生から引き継いで、平成29年度も道の駅(2ヶ所)の活性化事業に取り組んでいる。本事業は国土交通省北陸整備局富山河川国土事務所の働きかけ・協力要請によって、平成28年度にスタートしている。

平成28年度は両道の駅の活性化策を立案するための基礎データを得ることを目的に、道の駅の利用客に関する意識・行動調査を実施し利用客の実態の把握をほぼ終了している。平成29年度は、活性化に繋がると考える具体的な事業に試験的に着手してみようということで、道の駅の責任者、富山河川国土事務所担当者、長尾ゼミ生の3者間で討議・企画の場を設けて推進してきた。その結果、「ウェーブパークなめりかわ」では、道の駅の滞在時間を増やすことを狙いに、「顔出し看板」の作成・設置を行う計画である。こうして、写真撮影のスポットを設定することによってSNS投稿による賑わいの拡散を行い、道の駅滑川の知名度の向上を図ってきたいという考えである。

一方、道の駅砺波では、もっと賑わいを創出すると共に、道の駅周辺の回遊性を高めるために、「砺波観光マップ」「年間イベントスケジュール」「道の駅砺波周辺アクセスマップ」を作成・配布する計画である。

今後は道の駅との連携をさらに深めることによって、道の駅の活性化について真摯に取り組み、できることから実現して地域・地元のため確実に成果を出していきたいと考えている。

2 南砺市との連携

富山国際大学「地(知)の拠点事業推進室」は、平成29年度に「福野まちづくり協議会」と連携して福野地域の今後のまちづくりについて、「共に考え共に実践していく」方針である。当面は平成29年11月6日に設立された新たな組織「福野まちづくり協議会」の事業方針に基づいて、本学が現状分析を目的に2つのアンケート調査を実施し、住民の日頃の買い物行動や地元商店街の評価等を明らかにすると共に、市外からの通勤者に対しては今後の居住や移住への考え方などを尋ねて転入の可能性を探る。次に、この両調査結果から課題を抽出し、転入促進に必要なことや商店街の新たな魅力づくりを検討する。

このように、福野まちづくり協議会との連携は緒に就いたばかりなので、本格的なまちづくりの方向性については平成30年度事業として取り組んでいかねばならない。

3 子ども食堂

「平成29年度 大学コンソーシアム富山 学生による地域フィールドワーク研究助成」及び「平成29年度 若者発! 富山の社会福祉実践事業」の採択を受け、富山国際大学子ども育成学部の学生研究グループが、研究会顧問の教員の指導を受けながら、貧困対策などを目的とした「子ども食堂」に関し、7箇所アンケート調査を実施した。

その結果、食事だけでなく、食育や子育て相談、交流の場としてのニーズもあることが判明した。また、自治体の調査結果を分析し、ひとり親家庭の保護者が無料の学習支援や安心できる居場所を求めていることも分かった。

新潟県における学生が中心となって運営する子ども食堂を視察することなどを重ね、このほど、県などの補助金を活用して学生が運営主体となるさまざまなニーズに応える食堂をオープンさせるための3カ年計画を進めるところへ到達した。



福野地域の活性化策を検討する協議会メンバーら
2017年11月8日(木)の北日本新聞 掲載記事より

富山大学

1 学生の就職に関する意識調査

就職に関する意識調査の結果を公表(富山大学)

富山大学地域連携推進機構地域連携戦略室(室長・金岡省吾教授)は、平成29年4月に同大学の学生を対象に実施した就職に関する意識調査の結果を公表した。

意識調査は、学生の地域定着を目的とした文部科学省COC+事業の一環。富山県内の地方公共団体や企業・団体等から講師を招いて富山の未来を考える地域志向の教育科目「地域ライフプラン」を履修した人文学部、経済学部の2年生168人を対象に実施した。回収数は162人(回収率96.4%)、有効回答数は157人(有効回答率93.5%、男性89人、女子68人)だった。関根道和(地域連携戦略室教授)、尾山真(COC+統括コーディネーター)、定村誠(COC+推進コーディネーター)の3氏らが分析した。

調査結果では、富山県内の就職先に魅力を感じる人は全体の51.6%だった。出身県別にみると、県内出身者の85.7%が県内の就職先に魅力を感じていたのに対し、県外出身者は36.1%で、2倍以上の開きがあった。また、県内出身者のうち63.3%が大都市圏の就職先にも魅力を感じており、県内出身者は必ずしも県内での就職を志向しているわけではないこともわかった。

就職先を決める際に重視する項目を尋ねたところ、県内出身者、県外出身者ともに、自身の特性が生きる将来性のある安定した仕事を重視する傾向がみられた。また、県内出身者と県外出身者を比較すると、県外出身者は県内出身者と比べて都市部での就職を重視する傾向があった。また、県外出身者は県内出身者よりもグローバルに活躍できることや、将来責任ある地位につくことができることを重視していた。県内出身者は、県外出身者よりも、家族の意向を重視する傾向があった。

富山県では、有効求人倍率が全国平均より高い水準が継続しており、平成29年5月の有効求人倍率は1.78倍(全国平均1.49倍)だった。富山県の人口減少や人口流出による人手不足が地域課題となっている中、こうした若い世代の意識を考慮した取組が重要となる。地域連携戦略室では、この結果を参考にさらなるALL富山COC+事業の充実を図っていく。

図1 県内出身者と県外出身者では
県内就職に対する意識が大きく異なる

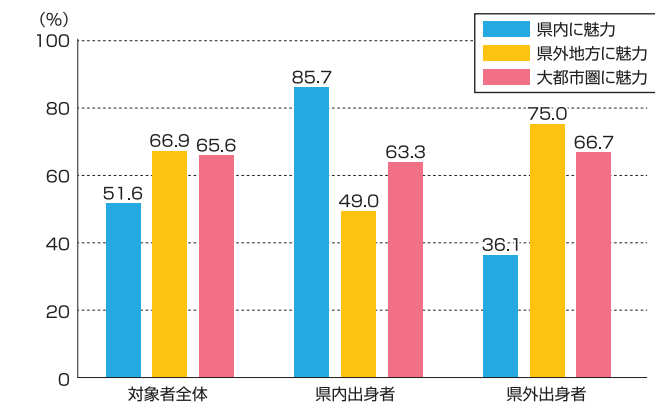


表1 県内出身者と県外出身者ともに
自身の特性が生きる将来性のある安定した仕事

県内出身者		
1位	将来の安定を基準に就職先を選ぶ	95.9%
2位	自分の好きなことを基準に就職先を選ぶ	85.7%
	賃金を基準に就職先を選ぶ	85.7%
4位	得意なことを基準に就職先を選ぶ	81.6%
5位	生活のしやすさで就職先を選ぶ	79.6%
県外出身者		
1位	自分の好きなことを基準に就職先を選ぶ	89.8%
2位	賃金を基準に就職先を選ぶ	88.9%
3位	将来の安定を基準に就職先を選ぶ	87.0%
	得意なことを基準に就職先を選ぶ	87.0%
5位	生活のしやすさで就職先を選ぶ	83.3%

表2 県外出身者は都市部で責任ある地位につき
グローバルに活躍できるかを重視

県内出身者を基準とした場合の 県外出身者が重視している項目	ポイント差
1位 関西圏・中京圏で就職先を選ぶ	23.3%
2位 地方の中核都市で就職先を選ぶ	19.6%
3位 首都圏で就職先を選ぶ	18.1%
4位 グローバルに活躍できる就職先を選ぶ	15.1%
5位 将来責任のある地位につくことができる 就職先を選ぶ	14.0%

2 県内企業アンケート調査

ALL富山COC+事業の目標である「地元就職率10ポイント向上」を達成するため、平成28年度に、県内企業500社を対象に県内企業が求める人材等についてアンケート調査を行い、平成23年度に実施したほぼ同内容のアンケート調査の結果と比較して、県内企業が求める人材像等を明らかにした。(配付数:500件 回収数195件(回収率39.0%))

以下はその結果に関する考察の抜粋である。

【学生の教育に関して期待すること】

平成28年度の調査で新たに加えた2項目「日本語の読み、書き、話す力の修得」「ストレスに耐える力の修得」が上位となった。また、同内容の項目では、「英語を読み、聞き、話す力の修得」「個人に合わせた進路指導」の2項目が平成23年度より増加した。

【県内企業が求める人材像】

「どのような(能力のある)人材を採用したいか」の問いに対する回答で、

- ① 自分から進んでものごとに取り組む力
- ② 目標の達成に向かって取り組み続ける力
- ③ 社会の規範やルールに従って行動する力

の3項目が上位を占めた。

地元就職率改善に向けた取組として、「自主性、主体性」を重んじたカリキュラムを編成したり、ゼミ形式での授業を増やしたりすることが考えられる。

【従業員規模と採用数の関係】

「平成24年4月～平成28年4月で富山大学出身者の採用実績」の問いから、「1～9人」の採用実績の企業が75%を占めており、それらの企業の多くは従業員規模が300人未満であった。このことから、従業員規模300人未満の企業において一人でも多く採用されることが就職率向上には不可欠であると推察される。

【新規学卒者の採用難】

「新規学卒者の採用において苦労している点」では、「知名度不足、企業研究不足」「学生との接触、人材の確保」「内定者の辞退」が上位に挙げられていた。他の自由記述の内容と合わせると、中小企業(特に従業員規模の小さい企業)においては、「認知不足→学生との接点が少ない→内定者の辞退」という負のサイクルに陥っていると考えられる。

【学生へのPR】

「富山大学の教育・就職支援に関すること」への回答では、「中小企業・地元企業のPR、学生指導」と「学生との接点」が多く挙げられた。大手や従業員規模の大きな企業への関心が高いので、中小企業のPRを強化し、学生との接点を増やす必要がある。しかし、入社後のミスマッチが増加しているという意見もあり、インターンシップのさらなる活性化も必要であろう。ただ、単に説明会やインターンシップによって中小企業の魅力を学生に伝えることができたとしても一過性(短期間)であり、容易に解決できないと思われる。

【富山大学出身者に対する満足度と今後の方向性】

満足度については、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した企業が大半を占めており、「真面目で勤勉、能力が高く活躍している」等の声が多い。総じて富山大学出身者の評価は高く、採用したいという企業の思いとは裏腹に、依然大手志向による売り手市場からの脱却が図れていない。大手企業と中小企業の魅力を比較した際、「地元企業で働く良さは何か」「この会社で長く働きたいと思える環境であるか」などを実感してもらう仕掛けが必要であろう。

パンフレットやHPによるPR、インターンシップ受入などはすでに当たり前のこととなっており、さらに一歩地元企業の良さを伝えるための仕掛けとして、教育機関だけでなく、一般企業の提案を受け入れたり、自治体と連携したりすることも不可欠であると思われる。さとり世代と呼ばれる「欲がない」「無駄な努力を避け、合理的な行動」をとることが多いとされる若者が、「そこで働く意味(理由)」を見いだせる仕掛けを模索する必要がある。

	平成23年	平成28年	差
日本語の読み、書き、話す力の修得	—	19.5%	—
ストレスに耐える力の修得	—	17.9%	—
教養分野の修得	27.7%	16.4%	－11.3%
英語を読み、聞き、話す力の修得	14.3%	15.4%	1.1%
社会人マナーの修得	59.8%	14.9%	－44.9%
個人に合わせた進路指導	7.1%	12.3%	5.2%
専門分野を学ぶための基礎の修得	29.5%	7.2%	－22.3%
専門分野の知識・技能の修得	17.0%	6.2%	－10.8%
前に踏み出す力の修得	49.1%	5.6%	－43.5%
チームで働く力の修得	50.9%	5.6%	－45.3%
就職・就労意識の向上	27.7%	4.6%	－23.1%
考え抜く力の獲得	50.9%	4.6%	－46.3%
情報活用能力の修得	20.5%	3.1%	－17.4%
就職内定後の準備	4.5%	0.5%	－4.0%
その他	4.5%	—	—

※平成23年：本学卒業生採用実績企業・団体より数値抽出

※平成28年：全体より数値抽出 363.5% 133.8%

3 卒業者進路追跡実態調査

学生の地元定着支援を推進し、ALL富山COC+事業の目標である「地元就職率10ポイント向上」を達成するための基礎資料として、平成28年度に、3年以内の卒業・修了生を対象に、就業状況やインターンシップなどキャリア教育効果等の追跡調査を行い、その結果について考察した。(送付数6,128人 回収数656人(回収率11.3%))

なお、この調査はこれまでも3年毎に実施してきたものであり、以下は調査結果に関する考察の抜粋である。

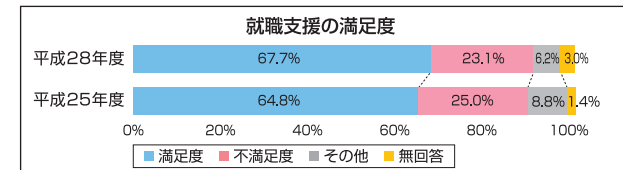
●平成25年度の結果との比較

(1) 就職支援の満足度

平成28年度は、平成25年度に比べ「満足」の割合が2.9ポイント増加し、「不満足」は1.9ポイント減少しており、全体的に就職支援の満足度は上昇している。

	平成28年度 回答数	%	平成25年度 回答数	%	差異 回答数	pt
満足度	470	67.7%	545	64.8%	－75	2.9pt
不満足度	160	23.1%	210	25.0%	－50	－1.9pt
その他	43	6.2%	74	8.8%	－31	－2.6pt
無回答	21	3.0%	12	1.4%	9	1.6pt
全体	694	100.0%	841	100.0%	－147	

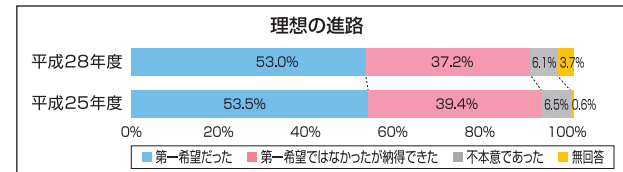
※満足度＝満足＋どちらかと言えば満足 不満足度＝どちらかと言えば不満足



(3) 理想の進路

理想の進路だったかどうかについては、ほとんど変化が見られなかった。不意な進路選択が6%強あり、こちらもほとんど変化が見られなかった。

	平成28年度 回答数	%	平成25年度 回答数	%	差異 回答数	pt
第一希望だった	368	53.0%	450	53.5%	－82	－0.5pt
第一希望ではなかったが納得できた	258	37.2%	331	39.4%	－73	－2.2pt
不本意であった	42	6.1%	55	6.5%	－13	－0.5pt
無回答	26	3.7%	5	0.6%	21	3.2pt
全体	694	100.0%	841	100.0%	－147	



●まとめ

【就職支援満足度】

在学時の本学の就職支援事業の満足度は、「満足」が18.9%、「どちらかといえば満足」が48.8%であり、合計67.7%が良い印象を持っている。その理由としては、就職に関する情報の多さや情報の得やすさ、面接練習や履歴書添削などの支援、就職支援担当の対応の良さが挙げられている。

一方、「不満」「どちらかといえば不満」の理由には、県外就職支援の不足、情報の不足、就職支援担当への不満などが目立った。満足側の理由と同じ項目で相反する意見が挙がっており、学生側の捉え方の違いや就職支援担当との相性などが理由として考えられる。

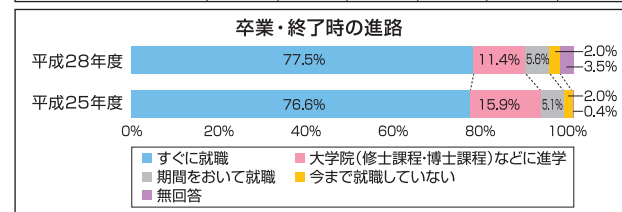
【就職活動において利用したもの】

「利用した」「少し利用した」を合わせて、最も高いものは「就職ガイダンス・説明会」で66.1%、「就職情報企業サイト」が54.5%であり、その他の項目は50%を下回っている。就職活動において利用するものは学生によりさまざまであるが、大学側の取り組みとして、「キャリアサポートセンター」「インターンシップ」「就職ガイダンス・説明会」の利用を促進していく工夫が必要である。全体として学生のニーズが高い取組を提供していくことを検討する必要がある。

(2) 卒業・修了時の進路

「すぐに就職」が0.9ポイント増加し、「進学」が4.6ポイント減少した。平成28年度は好景気に支えられて売り手市場となり、進学より就職を選ぶ学生が増えたことが原因と考えられる。

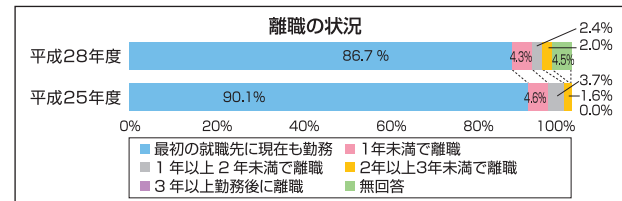
	平成28年度 回答数	%	平成25年度 回答数	%	差異 回答数	pt
すぐに就職	538	77.5%	644	76.6%	－106	0.9pt
大学院(修士課程・博士課程)などに進学	79	11.4%	134	15.9%	－55	－4.6pt
期間を置いて就職	39	5.6%	43	5.1%	－4	0.5pt
今まで就職していない	14	2.0%	17	2.0%	－3	0.0pt
無回答	24	3.5%	3	0.4%	21	3.1pt
全体	694	100.0%	841	100.0%	－147	



(4) 離職の状況

離職については、「1年未満で離職」「1年以上2年未満で離職」が減少したのに対し、「2年以上3年未満で離職」が微増となっており、3年未満での離職全体としては減少している。ただ、無回答の卒業生が平成25年度には0人だったところ、平成28年度には31人となっており、回答しにくい状況があったことも考えられる。

	平成28年度 回答数	%	平成25年度 回答数	%	差異 回答数	pt
最初の就職先に現在も勤務	602	86.7%	662	90.1%	－60	－3.3pt
1年未満で離職	30	4.3%	34	4.6%	－4	－0.3pt
1年以上2年未満で離職	17	2.4%	27	3.7%	－10	－1.2pt
2年以上3年未満で離職	14	2.0%	12	1.6%	2	0.4pt
3年以上勤務後に離職	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0pt
無回答	31	4.5%	0	0.0%	31	4.5pt
全体	694	100.0%	735	100.0%	－41	



4 アクティブ・ラーニングの勉強会（富山県経営者協会）

一般社団法人富山県経営者協会の教育委員会において、大学教育と社会人教育の相互理解をはかるため、「アクティブ・ラーニング」の講座が企画され富山大学地域連携戦略室に実施依頼があった。

平成29年2月23日、富山商工会議所ビル10階第2会議室において、中村和之富山大学経済学部長と定村誠COC+連携推進コーディネーターが講師を務め、「アクティブ・ラーニング」について体験を交えた講演および意見交換会が実施され36人が参加した。



5 北陸産学連携交流会（北陸経済連合会）

平成29年2月17日、北陸経済連合会による北陸産学連携交流会が開催された。

北陸3県の大学や会員企業から約70人が参加し、インターンシップをテーマに意見交換を行った。

（株）リクルートキャリア就職みらい研究所の岡崎所長が「企業にとって学生にとって意味のあるインターンシップを実現するために」と題して講演を行った。

富山大学からは富山県インターンシップ推進協議会の事業および県内3大学で取り組んでいる、中・長期インターンシップ、課題解決型インターンシップ、文理融合型インターンシップの取組や、新たなインターンシップ報告会の内容を紹介した。

1 事業の成果

ALL富山COC+事業では、「信頼の循環」を基礎に事業を進めているが、次第に信頼の循環に基づいた継続的な取組が具体的に行われるようになってきている。

県内高等教育機関間については、地域課題解決型人材育成プログラム等の制定による「未来の地域リーダー」の育成・輩出を、全ての高等教育機関でそれぞれの実態に合わせて実施することになった。また、富山大学の新設COC+科目である「地域ライフプラン」は、平成29年度後学期には各高等教育機関から担当教員が選任され、富山大学を含む4つの高等教育機関で双方向で実施された。さらに、各高等教育機関における地域科目の科目数も増加し、地域企業や地方公共団体等との連携により内容も改善されてきた。課外の取組においても、新たなインターンシップ報告会や合同進学説明会、とやま塾、ALL富山COC+シンポジウムなど、さまざまな事業が協働で実施された。

高等教育機関と地域企業や地方公共団体との連携については、授業への協力、企業視察やインターンシップの受け入れも増加する等、信頼関係の構築による連携強化がなされた。

COC+科目の授業では、地域企業の産業観光や、企業や地方公共団体等からのゲストスピーカーの招聘を積極的に行い、学生が地域と触れる良い機会となった。また、これらの授業には、これまで富山大学が行ってきた地域課題解決プロジェクトや地域再生人材育成事業を通して育った人材もゲストスピーカーとして招き、地域での地方創生に向けた積極的な取組内容や地域マインドに触れることで、地域定着の魅力や地域貢献の意識が芽生えてきている。これらの地域定着に対する効果は、授業アンケートの分析を通して統計的に有意な効果であると判明している。

また、地方公共団体や各種団体等から大学への協力要請も増加し、様々な地域の取組を通して学生と地方公共団体等との交流も進んでいる。

このようなALL富山COC+事業の取組、COC+以前からの取組、地域からの働きかけ等を通して、ALL富山COC+事業の指標である、インターンシップ参加者数の大幅増、県内就職率の上昇に繋がったと考えられる。

2 今後の見通し

ALL富山COC+事業を進めていくためには、今後も「信頼の循環」を更に強化していく必要がある。企業等との連携では、「未来の地域リーダー応援隊」を組織し、その活動を通して、企業等と学生との繋がりを密にしていこうと予定である。手始めに、人材育成ビジョン検討WGに企業や団体等に参画してもらい、「未来の地域リーダー」の地域への浸透や今後の「未来の地域リーダー」の地位の確立などについて考える。また、地方公共団体との連携もさらに強化していく。

県内高等教育機関においても、大学コンソーシアム富山がALL富山COC+の取組の一部を継承しながら、大学間連携のハブの役割を担っていくことで「信頼の循環」を強化していく。例えば、各高等教育機関の新設COC+科目や地域科目を大学コンソーシアム富山の単位互換科目として整備し、県内の学生が地域科目を受講しやすい環境を作っていく。

授業アンケート等により、地域科目の地域定着に向けた効果は確認されたが、教育から就職活動（教育戦略から出口戦略）までの間を埋める必要がある。この間、学びの内容は専門性の高い内容が中心となっていくため、学部における地域科目（地域課題解決科目、地域関連科目）等の充実が必要となる。今後の展開としては、例えば富山大学では、平成30年度に新設される都市デザイン学部において、学部横断型PBLや全学PBLなどの授業をCOC+に結びつけて実施するなど、学内の地域定着推進体制を整備していく。

正課外の活動においては、地域定着プログラムが通常業務として就職支援に関わる業務に組み込まれて、今後も継続して地域定着を推進していく。また、未来の地域リーダー塾では、地域企業と学内サークル等との連携を視野に入れて、就職活動を補完する正課外活動を支援していく。

このような取組を通して、ALL富山COC+事業で地域定着10%向上を目指すこととしている。